



Cambria Live2.3

操作マニュアル (ユーザー様向け)

お買い上げいただきありがとうございます。

この操作マニュアルをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

お読みになった後も大切に保管し、必要な場合にお読みください。

July 2013



目次

目次	2
はじめに	4
製品の特長	4
Cambria Live 仕様	6
DV25 コーデックの QuickTime 形式 (MOV)の読込	7
Windows の設定及び注意事項	8
ウイルス対策について	8
Cambria Live 動作環境	9
Cambria Live ベンチマーク	10
Cambria Live のインストール	10
Cambria Live 入力接続について	19
Cambria Live のアンインストール	21
Cambria Live	24
Cambria Live の起動	24
Cambria Live キャプチャ素材追加設定	24
Cambria Live キャプチャデバイス設定	25
Cambria Live バーチャルカメラ素材設定	28
Cambria Live 素材設定	29
Cambria Live Playlist 機能設定	31
Cambria Live レイヤー設定 — 静止画追加	33
Cambria Live レイヤー設定 — テキスト追加	34
Cambria Live レイヤー設定 — スクロールタイトル追加	35
Cambria Live レイヤー設定 — ピクチャーインピクチャー	36
Cambria Live ターゲット設定	38
Cambria Live H.264 コーデック設定	40
Cambria Live Ustream 配信設定	44
Cambria Live YouTube 配信設定	45
Cambria Live AdobeFlash Media Server/Wowza 配信設定	50
Cambria Live ファイル出力設定	51
Cambria Live 配信開始	54
Cambria Live 配信プレビュー選択	55
Cambria Live ファイル出力開始、停止	56
Cambria Live オプション機能	57
.....	57



Cambria Live 通知設定 ツイッター投稿	58
Cambria Live 編集 リアルタイム編集機能.....	59
Cambria Live オプション機能—外部信号制御機能.....	60
外部信号制御機能—CM 素材登録	60
.....	61
Cambria Live オプション機能—自動制御	61



はじめに

製品の特長

Cambria Live はイベント、コンサート、コンファレンス会場などから、さまざまなストリーミングサーバー (Adobe Flash Media Server, Ustream Server, YouTube Live Server, Wowza Media Server, UDP/RTP 等) にライブ配信を行う高画質ライブエンコードシステムです。HD/SD-SDI, HDMI からの入力を、新開発のエンコードエンジンによって、配信に適した H.264, MP4 等にダイレクトに変換することで、高画質配信を実現します。

● 高品質な H.264 エンコード技術

Cambria Live は、高画質を維持したまま、ライブ配信に適した低ビットレートの映像にエンコードする H.264 エンコーダーを使用し、高品質なライブ配信が可能です。Web, モバイル配信で求められる低ビットレートでのエンコードでは、新開発の動き探索アルゴリズムにより動きが激しくエンコードが難しい映像でも、人間の視覚的特徴を高度に利用することで、高画質、高圧縮を実現しています。

● ファイル出力、同時複数ストリーム出力機能

ライブ配信をおこなうと同時に、ファイル出力や、複数チャンネルへの配信*が可能です。この機能により、ライブ中継終了後、すぐに自動で再配信をおこなう事が可能です。

*同時複数出力可能な数は使用する PC スペックにより異なります。

● 信頼性の高いシステム

Cambria Live は、長時間の配信でも不安定にならない信頼性の高いシステムです。アプリケーション自体の高い安定性に加え、ネットワーク回線の状況をアプリケーション上で常に確認でき、帯域が一定値より低下した場合、アラートを表示する機能を搭載しています。また万が一、映像機材側に不具合が発生した場合でも、あらかじめ設定した非常用素材に自動で切り替えます。



● ライブ配信に便利な機能を搭載

ライブ配信中に映像の輝度、コントラスト、ガンマ補正、音声レベル、リップシンク遅延などをリアルタイムで処理する機能や、テキストやロゴをリアルタイムで挿入する機能を搭載しています。また、ライブ配信中に配信映像のリンクを **Twitter** に自動で投稿する事も可能です。

● ライブ配信スタジオに便利な機能を搭載

任意の位置を切り出し、素材リストに登録しておくことで、ライブ配信中の自由なスイッチングを行いバーチャルマルチビューカメラ環境の構築が可能です。また、ピクチャインピクチャ機能を使用しキャプチャ素材と指定した素材ファイルを合成する事も可能です。クロマキー機能を使用しリアルタイムでのクロマキー合成が可能です。

● カスタマイズにも柔軟に対応

市販の製品では満たすことのできないユーザーニーズには別途、カスタマイズソリューションを提供します。ユーザーのワークフロー、トランスコーディングニーズに合わせ、柔軟かつ信頼性の高いシステムを開発・提供します。他のアプリケーションに組み込むための XML ベースの SDK 提供も対応可能です。

Cambria Live 製品ラインアップ

Cambria Live (ADE, DTE) –インターネットライブ配信用エンコードシステム

- Cambria Live ADE : デジタル映像入力 (HD/SD-SDI, HDMI)
- Cambria Live DTE : デジタル映像入力 (HD/SD-SDI)

Cambria Live Studio –オールインワンライブ配信システム

- Cambria PTRZ カメラ
- Cambria Capture board
- DVI 入力

Cambria live Broadcast –ブロードキャスト向け、インターネット番組配信システム

- Cambria Live Broadcast ADE:デジタル映像入力 (HD/SD-SDI, HDMI)
- Cambria Live Broadcast DTE:デジタル映像入力 (HD/SD-SDI)
- スケジューラ機能
- タイムアクション機能
- 接点制御信号



Cambria Live 仕様

Cambria Live ADE : デジタル映像入力 (HD/SD-SDI, HDMI)

Cambria Live DTE : デジタル映像入力 (HD/SD-SDI)

Aja インプット/アウトプット:

		Cambria Live DTE	Cambria Live ADE
Digital Video Inputs	HD/SD-SDI	BNC×1 (SMPTE 259M/292M/296M)	BNC×1 (SMPTE 259M/292M/296M)
	HDMI	-	HDMI×1 (v1.3, 30 Bits/Pixel, RGB or YUV, 2.25Gbps, SD, HD, 1080p50/60)
Digital Video Inputs	HD/SD-SDI	BNC×1 (SMPTE 259M/292M/296M)	BNC×1 (SMPTE 259M/292M/296M)
Digital Audio Inputs	HD/SD-SDI	Embedded Audio (16-ch 24-bit, 48 kHz Synchronous)	Embedded Audio (16/24/32-bit SMPTE 259M, 8-ch, 48 kHz, Synchronous)

Cambria Live PTRZイメージ処理ボード:

Interface	PCI Express x 4
Data Transfer Format	Uncompressed video (RGB Bayer RAW 10-bit, RGB 10/8-bit), YUV (8-bit)
Camera Head Connecting Port	RJ45 × 1 (with locking screw)
OS	Microsoft Windows 7 32/64-bit
Video Input Jacks on Board	DVI-D
Video Output Jacks on Board	HDMI
Video Resolution/Frame Rate	2048 × 1536 at 60fps, 1920 × 1080 at 60fps, 1600 × 1200 at 60fps, 1280 × 1024 at 60fps, 1280 × 720 at 120fps, 1024 × 768 at 120fps, 720 × 480 at 180fps, 640 × 480 at 180fps
External Dimensions	167.7 × 111.2 mm



入力ファイル形式：

Input Format	Container	Video Codec	Audio Codec
Flash Video	F4V	H.264	MPEG-2 AAC
Generic MP4	MP4	H.264	MPEG-2 AAC
Generic TS	MPEG-2 TS	H.264	MPEG-2 AAC, MPEG-1 Layer-2,
		MPEG-2	MPEG-2 AAC, MPEG-1 Layer-2,
Generic PS	MPEG-2 PS	MPEG-2	MPEG-2 AAC, MPEG-1 Layer-2,
	MPEG-1 PS	MPEG-1	MPEG-2 AAC, MPEG-1 Layer-2,
HDV	MPEG-2 TS	MPEG-2	MPEG-1 Layer-2
QuickTime ²	MOV	DV25	Linear PCM
Windows Media	WMV	Windows Media Video	Windows Media Audio
Still Image			
BMP, JPEG, PNG, TIF, TGA			

出力ファイル形式：

Output Format	Container	Video Codec	Audio Codec
Generic TS	MPEG-2 TS	H.264	MPEG-2 AAC (1-ch, 2-ch, 5.1-ch)
Generic MP4	MP4	H.264	MPEG-2 AAC (1-ch, 2-ch, 5.1-ch)

※Cambria Ver2.3 では以下の他社製プログラムをインストールすることで QuickTime フォーマットの読込が可能となります。なお下記モジュールと Cambria Ver2.3 との動作につきましては弊社にて確認しておりますが運用した結果については責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

DV25 コーデックの QuickTime 形式(MOV)の読込

Apple MOV コンテナの DV 素材に関しては下記バージョンの QuickTime をインストールすることで読み込むことが可能です。(Cambria Live で対応するのは DV25 コーデックのみです)

モジュール名：QuickTime 7.7 (Windows XP,Windows Vista or Windows 7)

ダウンロード元：<http://www.apple.com/jp/quicktime/download/>



Windows の設定及び注意事項

1. 自動の Windows Update を無効にします。
＜注釈＞最新の update の状態にする為、手動での更新を頻繁に行ってください。
2. スクリーンセーバーを「なし」にします。
3. できるだけ常駐ソフトのインストールは避けて下さい。（例えば iTunes など）
4. DirectShow を使うアプリケーション（フィルター）のインストールはしないで下さい。
＜注釈＞入力ファイルによってはアプリケーション/フィルター/コーデックのインストールが必要な場合は、お問い合わせ下さい。
5. 電源設定は、HDD, CPU などが省電力モードにならない設定にして下さい。
6. スリープを無効にします。
7. Cambria シリーズは、administrator 権限のあるアカウントでご使用することを推奨します。

ウイルス対策について

Cambria Live は、インターネットに接続されますので、必要に応じてウイルス対策を行ってください。ここでは、Microsoft Security Essentials を使った場合の例を説明しています。

1. ダウンロードサイトから Microsoft Security Essentials をダウンロードします。

http://www.microsoft.com/ja-jp/security_essentials/default.aspx

2. Microsoft Security Essentials をインストールします。
3. Microsoft Security Essentials を起動します。
4. 「設定ダイアログ」は Windows の「スタートメニュー」から「Microsoft Security Essentials」を選択すると開きます。
5. 「スケジュールされたスキャン」を無効にします。
6. 「設定」タブで「スキャンスケジュール」にある「このコンピュータで、スケジュールされたスキャンを実行する」チェックボックスを OFF。
7. 「設定」タブで「リアルタイム保護」を「有効」にします。



ウイルス定義とスパイウェア定義を更新する方法

「更新」タブで「今すぐ更新」をクリックします。

Cambria Live を起動していないときに定期的にスキャンを実行します。

Microsoft Security Essentials の「ホーム」タブで「フルスキャンオプション」を選択し、「今すぐスキャン」をクリックします。

ウイルスなどが検出された場合は、警告が表示されるので、「詳細の表示」をクリックすれば、検出されたウイルスなどをどのように処理するかを指定できます。

「コンピュータから除去」をクリックすればウイルスなどは削除されます。

「推奨」プルダウンメニューで「許可」を選択し、「操作の適用」をクリックすれば、以降スキャンを実行しても同じファイルがウイルスなどとして検出されることはなくなります。

Cambria Live 動作環境

最低限必要なマシンスペック

Minimum Hardware:	
OS	Microsoft Windows 7 Professional 64-bit
Memory	8GB
Processor	Single Intel Xeon E5-1650, 3.2 GHz
Hard Disk	250GB (SATA, 7200rpm)
Interface	PCI Express 4x
USB Port	One USB port

推奨マシンスペック

Recommended Hardware:	
OS	Microsoft Windows 7 Professional 64-bit
Memory	8GB or more
Processor	Dual Intel Xeon X5660, 2.8 GHz or faster
Hard Disk	250GB (SATA, 7200rpm)
Interface	PCI Express 4x
USB Port	One USB port



Cambria Live ベンチマーク

Cambria Live 2.3 に最低限必要なマシンスペックに設定された HP620 から取得したベンチマーク結果です。ターゲット設定は Cambria Live のパフォーマンスに大きく影響します。以下の結果は YouTube をターゲットに設定した場合です。

HP Z620 (dual(2x) Xeon ES-2660, 2.2GHz, 8-core ハイパースレッド OFF) 8GB (1600Mhz)			
入力信号と PinP 設定数	バーチャルカメラ設定数	レイヤー	出力解像度
1080p+ 0 PinP	4	4	720p, 480p, 360p, 240p
1080p+ 1 PinP	3	3	720p, 480p, 360p, 240p
720p + 2 PinP	4	4	720p, 480p, 360p, 240p

Cambria Live のインストール

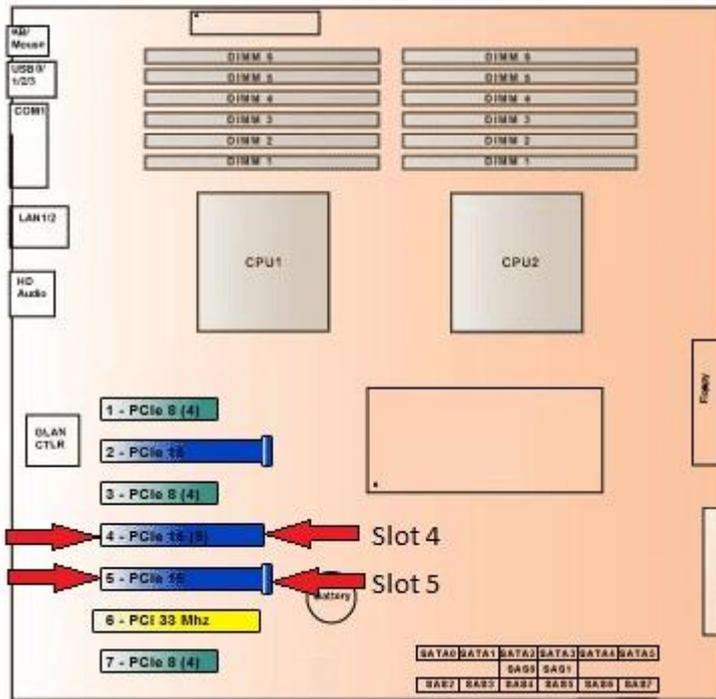
Cambria Live Series 2.3 には Cambria Live DTE/ADE 2.3、Cambria Live Studio2.3、Cambria Live Broadcast 2.3 があります。各バージョンに含まれるコンポーネントは下記です。インストール前に全てのコンポーネントがパッケージに含まれていることを確認して下さい。

- Cambria Live DTE: SD/HD-SDI 入力対応
- Cambria Live ADE: SD/HD-SDI, HDMI 入力対応
- Cambria Live Studio: PTRZ カメラ入力対応

- **Cambria Broadcast** 外部接点入力信号対応、スケジューラー機能、自動制御機能 (外部接点入力信号機能については各お客様のワークフローにあわせてのカスタマイズ対応となります)

Cambria Live DTE	
SDI IO Board (AJA Corvid) Installation CD USB Key	
Cambria Live ADE	
SDI/Analog IO Board (AJA LHi) AJA Breakout Cable Installation CD USB Key	
Cambria Live Studio	
PTRZ Camera SXH-360 Board RJ45 Cable USB Game Controller Installation CD USB Key	

1. マシンの電源をオフにする
 - スタートメニュー>シャットダウン>電源をオフにする
 - 電源ケーブルを抜き取る
2. インストールキットに含まれるキャプチャボードを PCI EXPRESS スロットに取り付ける
 - マシンのサイドパネルを外し PCI EXPRESS スロットにキャプチャボードを差し込む
 - PCI EXPRESS スロットに正しく差し込まれた事を確認する
 - HP Z800、またはHP Z620 にインストールする場合はスロット4またはスロット5にキャプチャボードを差し込みます (次ページ参照)



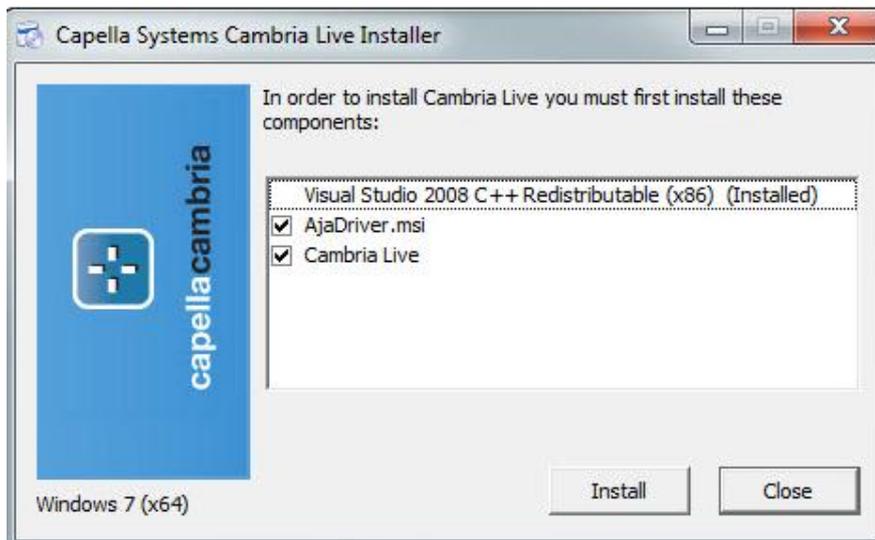
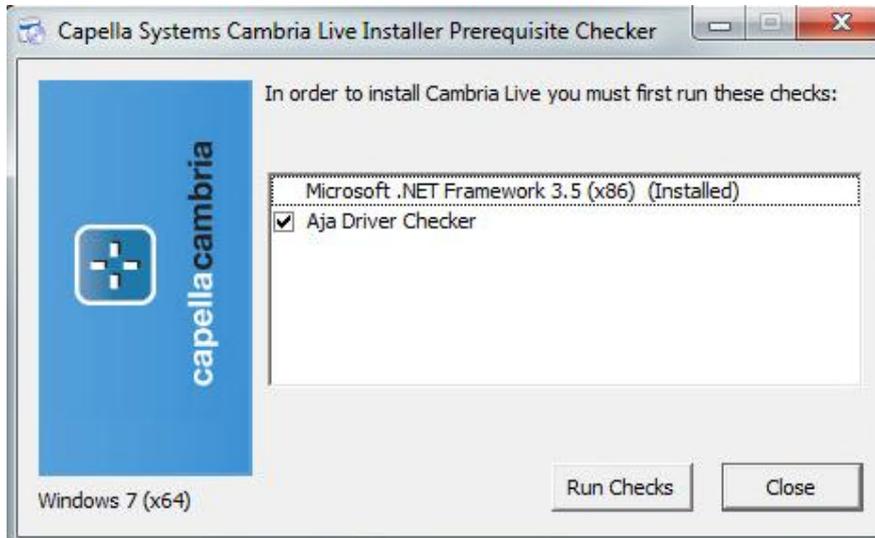
*マシーンによって PCI EXPRESS スロットの位置や向きが異なります。詳しくはパソコンの取り扱い証明書をご覧ください。

3. マシーンを起動させる

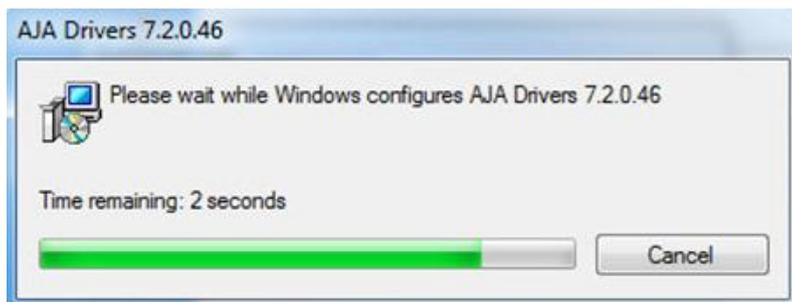
- Administrator 権限のあるアカウントでログインします

4. Cambria Live ソフトウェアのインストールを開始

- Cambria Live ADE/DTE/Studio → CD 内の Cambria Live installation フォルダから setup.exe を実行する
- AJA ドライバーのチェックを実行する (AJA カードがインストールされていない場合でもこのチェックをする必要が有ります。)



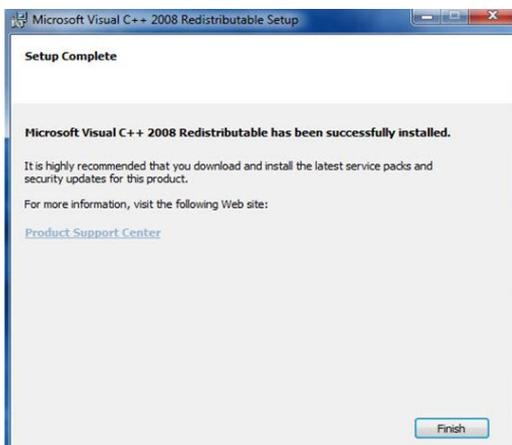
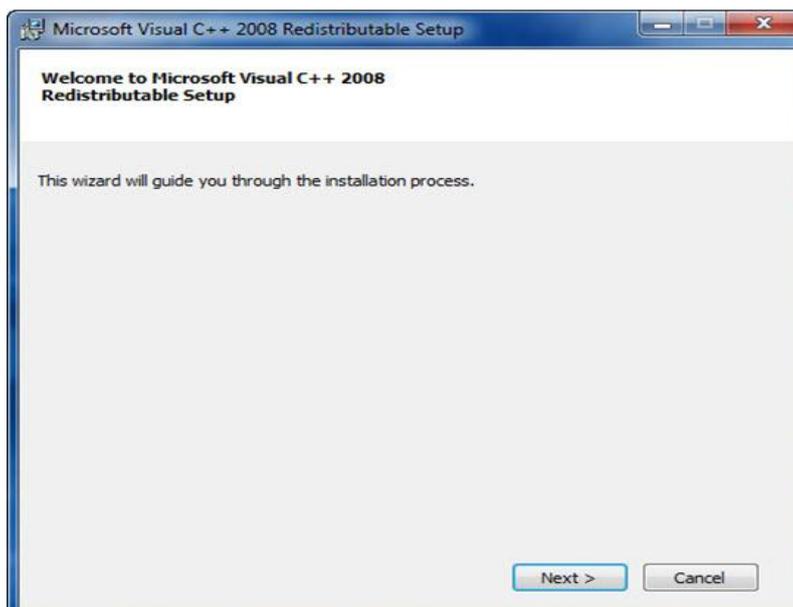
- AJA Driver をインストールする





「Always trust software.....」もしくは日本語で「常にこのベンダー....」のダイアログボックスにチェックをしてください。

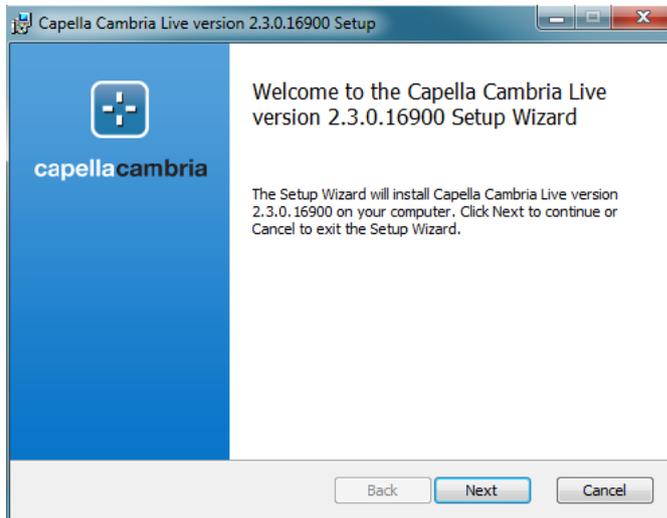
- Microsoft visual C++ 2008 Redistributable セットアップを実行する。



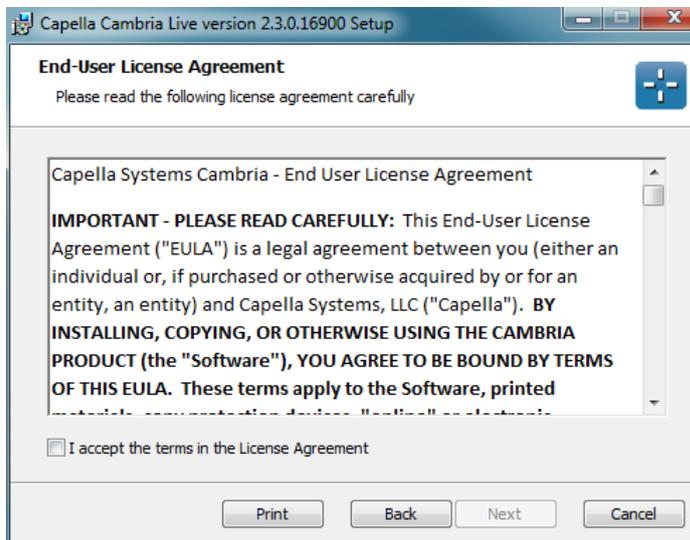


5. Capella Live 2.3 をインストールする

- Next をクリックし次のページへ進む



- EULA に同意し次のページへ進む





- Customer 情報を入力し次のページへ進む

Capella Cambria Live version 2.3.0.16900

Customer Information

Please enter your customer information

User Name:
yamada

Organization:

Back Next Cancel

- Firewall 設定を指定し次ぎへ進む

Capella Cambria Live version 2.3.0.16900

Adding Firewall Rules

Adding Windows Firewall Inbound Rules for selected Profiles

Private

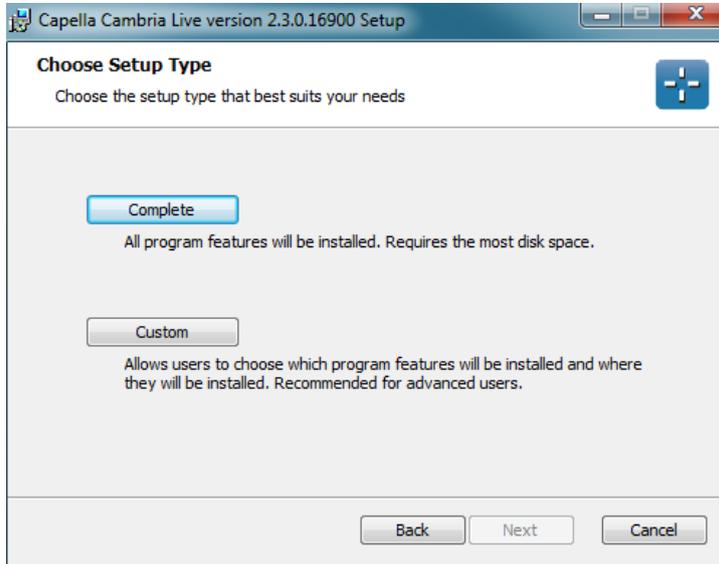
Domain

Public

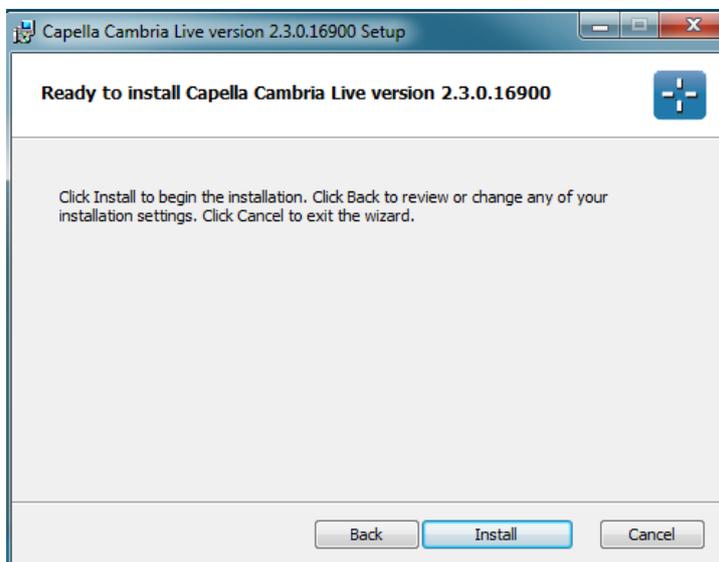
Back Next Cancel



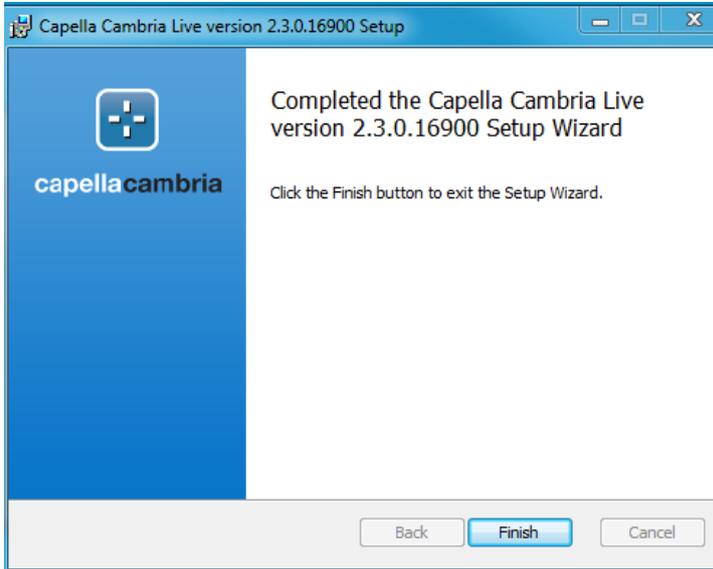
- Complete を選択し次へ進む



- インストールを開始する

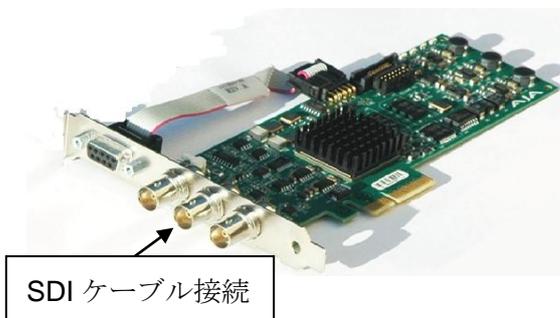


- インストール終了



6. SDI, HDMI ケーブルを接続

Cambria DTE



Cambria ADE





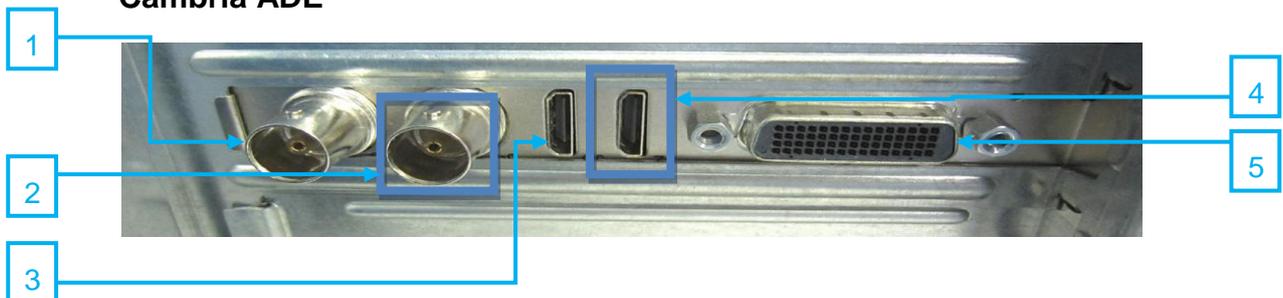
Cambria Live 入力接続について

Cambria DTE



1	HD/SD-SDI OUT 入力スルー出力に対応しています。
2	HD/SD-SDI IN SDI ケーブルを接続して下さい。
3	Genlock/LTC IN Cambria Live では Genlock/LTC IN は使用していません。
4	RS-422 Cambria Live では RS-422 は使用していません。

Cambria ADE



1	HD/SD-SDI OUT
---	----------------------

	入カスルー出力に対応しています。
2	HD/SD-SDI IN SDI ケーブルを接続して下さい。
3	HDMI OUT Cambria ADE では HDMI OUT は使用していません。
4	HDMI IN HDMI ケーブルを接続して下さい。
5	Breakout Cable 接続 Cambria ADE には Breakout Cable が付属されています。

Cambria Live Studio (SXH-360)

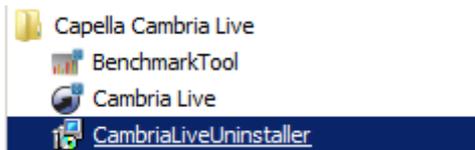


1	カメラヘッド接続ポート PTRZ カメラを RJ45 ケーブルで接続して下さい。
2	HDMI OUT PTRZ カメラからのループスルー出力に対応しています。
3	DVI-D IN DVI-D ケーブルを接続して下さい。

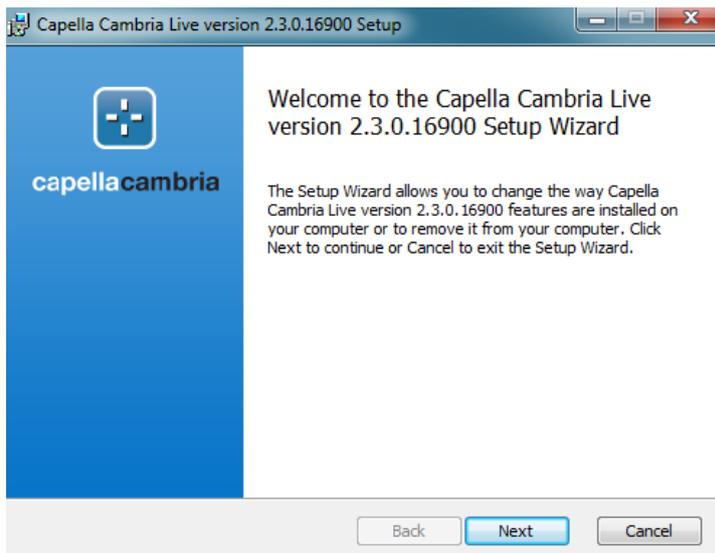


Cambria Live のアンインストール

[スタート] → [すべてのプログラム] → [Capella Cambria Live] → [CambriaLiveUninstaller] を選択します。

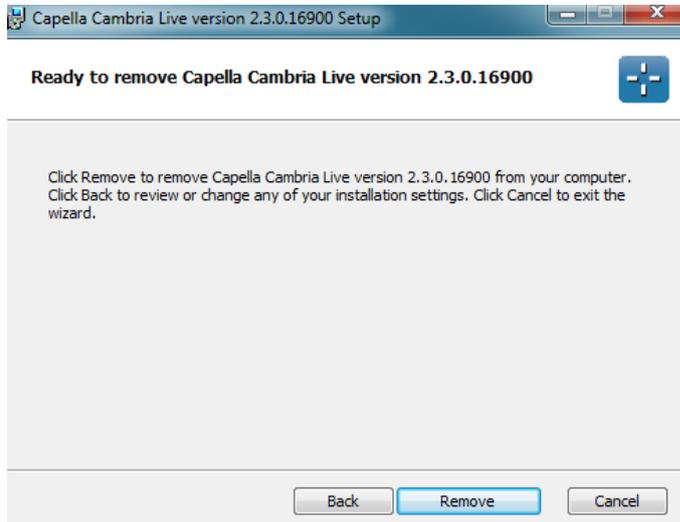


Cambria Live のセットアップウィザードがスタートしたら、[Next]をクリックします。



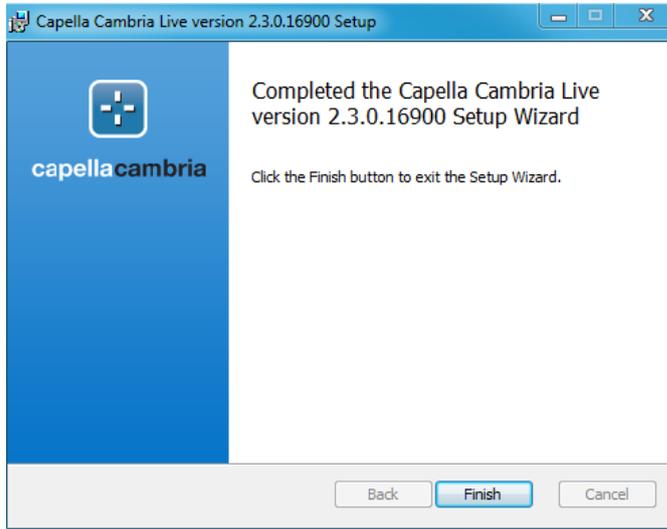


アンインストールするには、[Remove]を選択し、[Next]をクリックします。
確認画面でさらに[Remove]をクリックし、アンインストールを進めます。





アンインストール完了です。[Finish]をクリックしてウィザードを終了してください。

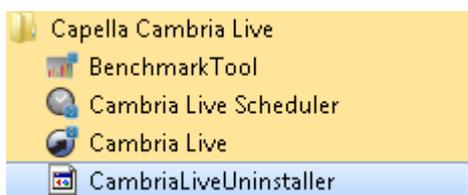




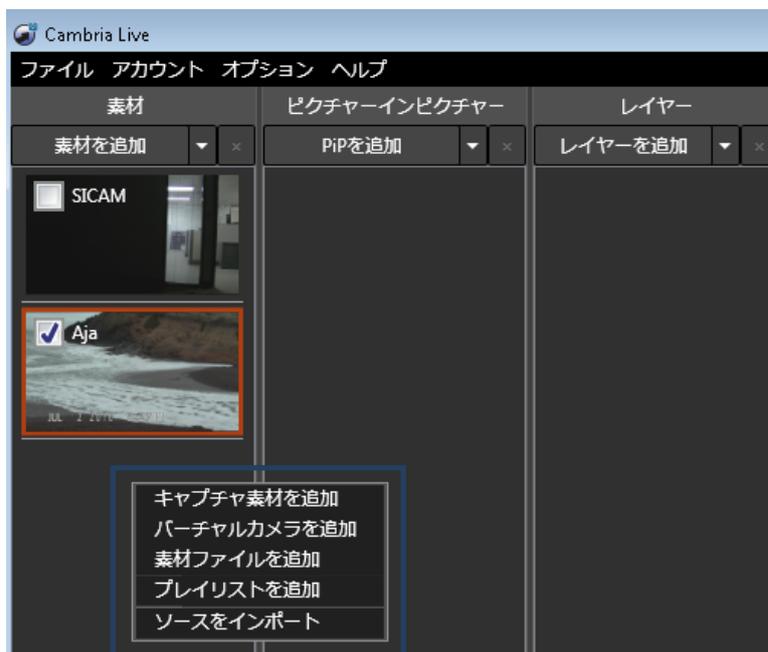
Cambria Live

Cambria Live の起動

デスクトップのアイコンをダブルクリックするか、[スタート]→[すべてのプログラム]→[Capella Cambria Live]→[Cambria Live] を選択します。



Cambria Live キャプチャ素材追加設定



1 キャプチャ素材を追加

Cambria Live ADE: SDI, HDMI, アナログからキャプチャ可能です。

Cambria Live DTE: SDI からキャプチャ可能です。

Cambria Live ADE の場合配信中に入力ソースを HDMI、SDI、アナログに切り替える事が可能です。

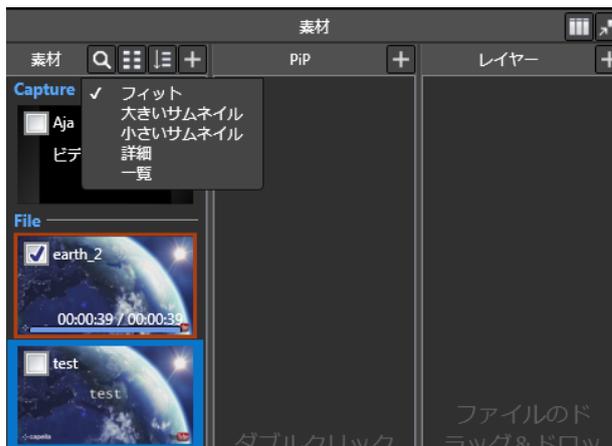
Cambria Live Studio: PTRZ カメラ入力



- | | |
|---|---|
| 2 | バーチャルカメラを追加
キャプチャ素材の任意位置の切り出しを行いバーチャルカメラ設定が可能です。 |
| 3 | 素材ファイルを追加
動画ファイル（.MP4, .TS, WMV, .MOV）と静止画（.JPEG, .PNG,）の入力が可能です。 |
| 4 | プレイリストの追加
複数の動画ファイル、静止画ファイルを追加したプレイリストの作成が可能です。 |
| 5 | ソースをインポート
あらかじめ保存した素材一覧プロジェクトファイルの入力が可能です。 |

Cambria Live 素材表示設定

用途に合わせて素材サムネイル、素材情報の表示方法が選択できます。



- | | |
|---|--|
| 1 | フィット
素材サムネイル一覧をフィットサイズで表示します。 |
| 2 | 大きいサムネイル
素材サムネイル一覧を大きいサイズで表示します。 |
| 3 | 小さいサムネイル
素材サムネイル一覧を小さいサイズで表示します。 |
| 4 | 詳細
サムネイルに加え素材の解像度、アスペクト比、再正時間、音声情報が表示されます。 |



5

一覧

素材が一覧で表示されます。多くの素材ファイルを使用する場合に便利です。

Cambria Live 素材表示項目の指定

用途に合わせて表示する項目（ピクチャインピクチャ、レイヤー、コンポジション）が選択できます。



Cambria Live 素材検索



検索

素材の検索が可能です



Cambria Live 素材ソート



素材リストのソートが可能です。名前、解像度、長さにより昇順、降順のソートが可能です。

Cambria Live キャプチャデバイス設定



1

キャプチャデバイス設定

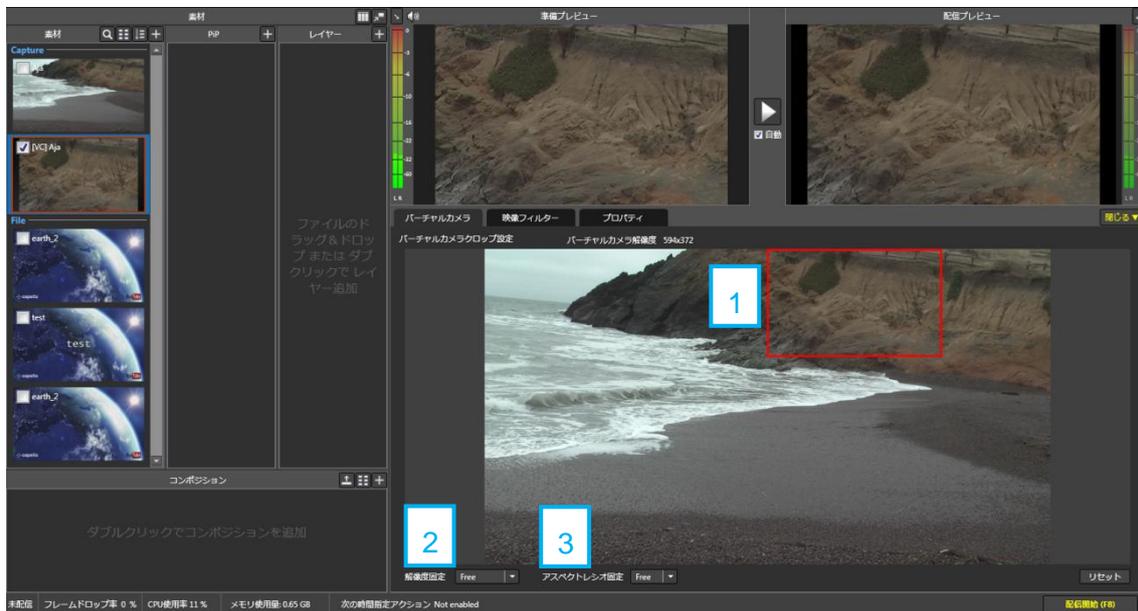
素材リストにキャプチャ素材を追加しキャプチャ素材画面をダブルクリックす



るとキャプチャデバイス設定が可能です。 ADE をご使用の場合、HDMI, SDI, Analog へのキャプチャ素材切り替えが可能です。音声チャンネル、アスペクト比、別音声ソースの設定も可能です。

Cambria Live バーチャルカメラ素材設定

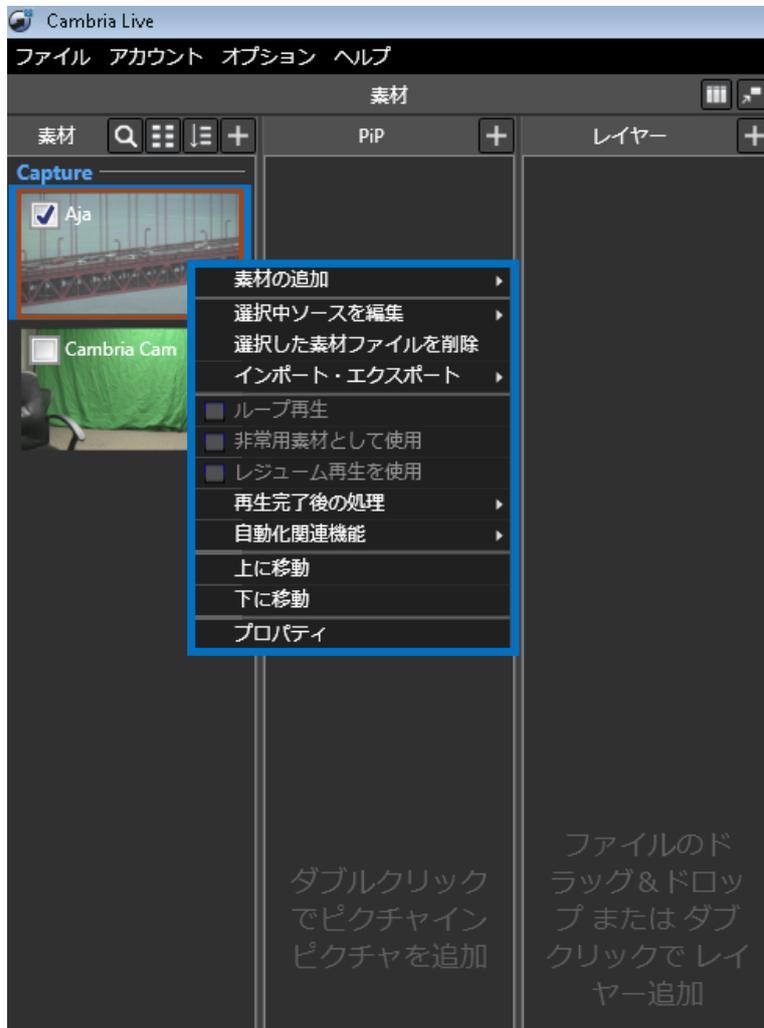
バーチャルカメラ機能を使用し映像の任意の位置の切り出し、配信が可能です。



- 1** **バーチャルキャプチャ任意位置設定**
バーチャルカメラを追加しチェックボックスをオンにするとバーチャルカメラ映像が映像プレビュー画面で確認できます。赤枠をキャプチャしたい位置に設定するとバーチャルカメラの切り出し位置が設定できます。
- 2** **バーチャルカメラ解像度**
バーチャルカメラ解像度は「1」赤枠で設定した解像度が表示されます
- 3** **アスペクトレシオ固定**
バーチャルカメラ切り出し位置のアスペクトレシオを固定する事が可能です。
4 : 3、16 : 9、または **Free** での設定が可能です



Cambria Live 素材設定



- | | |
|---|--|
| 1 | 選択中ソースを編集
選択したソースの色補正、クロップ、音声レベル調整、リップシンク調整などが可能です |
| 2 | 選択した素材ファイルを削除
リストから選択した素材を削除します。
<キーボードショートカット>
[CTRL]+[A] : リスト内全ての素材ファイルを選択
[CTRL]+[左クリック] : クリックしたファイル全てを選択
[SHIFT]+[左クリック] : 最初と最後にクリックした間のファイル全てを選択 |

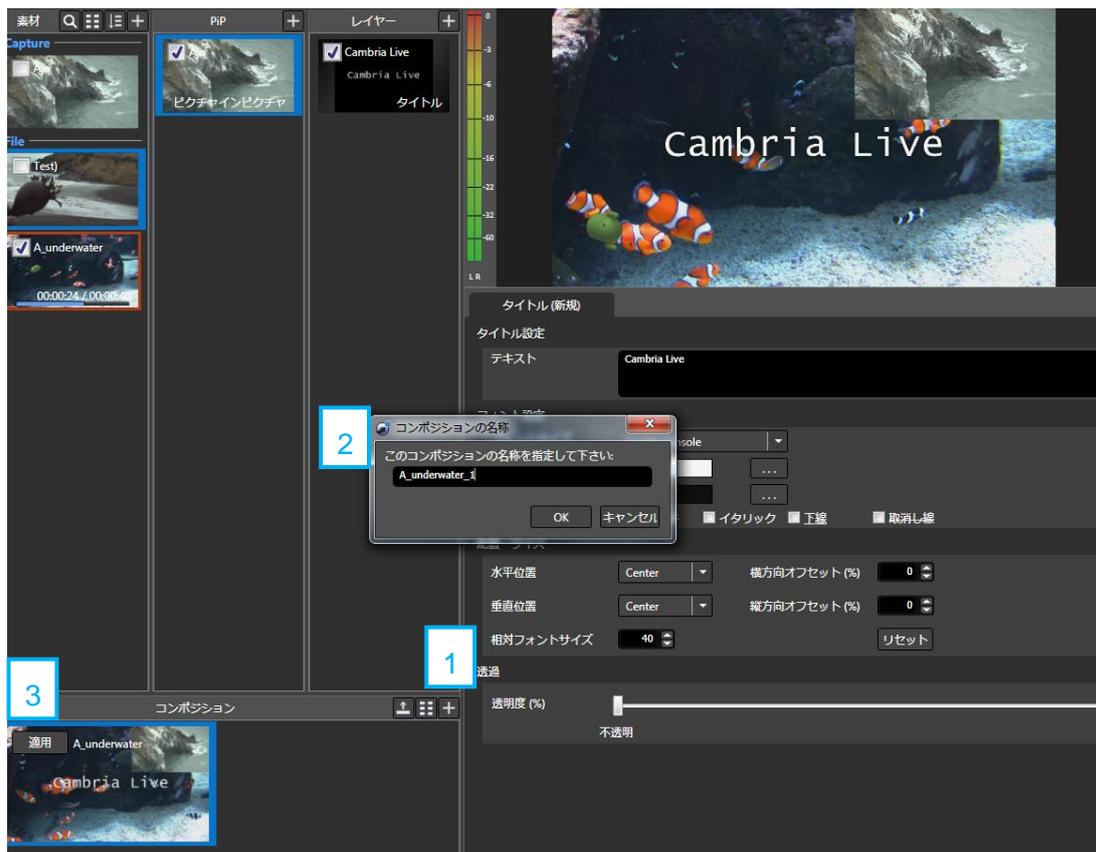


3	インポート エクスポート 素材ファイルリスト(.clsl)をインポートします。素材ファイルリスト(.clsl)をエクスポートし保存します。
4	ループ再生 選択したソースファイルのループ再生が可能です。
5	非常用素材として使用 SDI/HDMI/PTRZ 入力信号が無信号になった場合、あらかじめ設定した非常用素材に自動で切り替えが可能です。
6	レジューム再生を使用 最後の再生ポイントからの再生再開が可能です。
7	再生完了後の処理 配信を停止—素材ファイルの再生終了後配信を停止します。 キャプチャーソースに変更—素材ファイルの再生終了後キャプチャーソースに切替えます。
8	自動化関連機能 (オプションで外部信号制御機能の購入が必要です) 制御信号による再生素材に設定—外部信号制御設定により再生素材ファイルが切り替わります スケジューラ用プリロール素材に使用—Cambria Live Scheduler (オプション対応)を使用の際にプリロール素材として本番配信前に配信されます。 制御信号で次に再生素材に設定—外部信号制御中にマニュアルで次の再生ファイルへの切り替えが可能です。
9	上に移動 素材を素材リスト内の上に移動させます。
10	下に移動 素材を素材リスト内の下に移動させます。
11	プロパティ 素材のプロパティが表示されます。



Cambria Live コンポジット機能

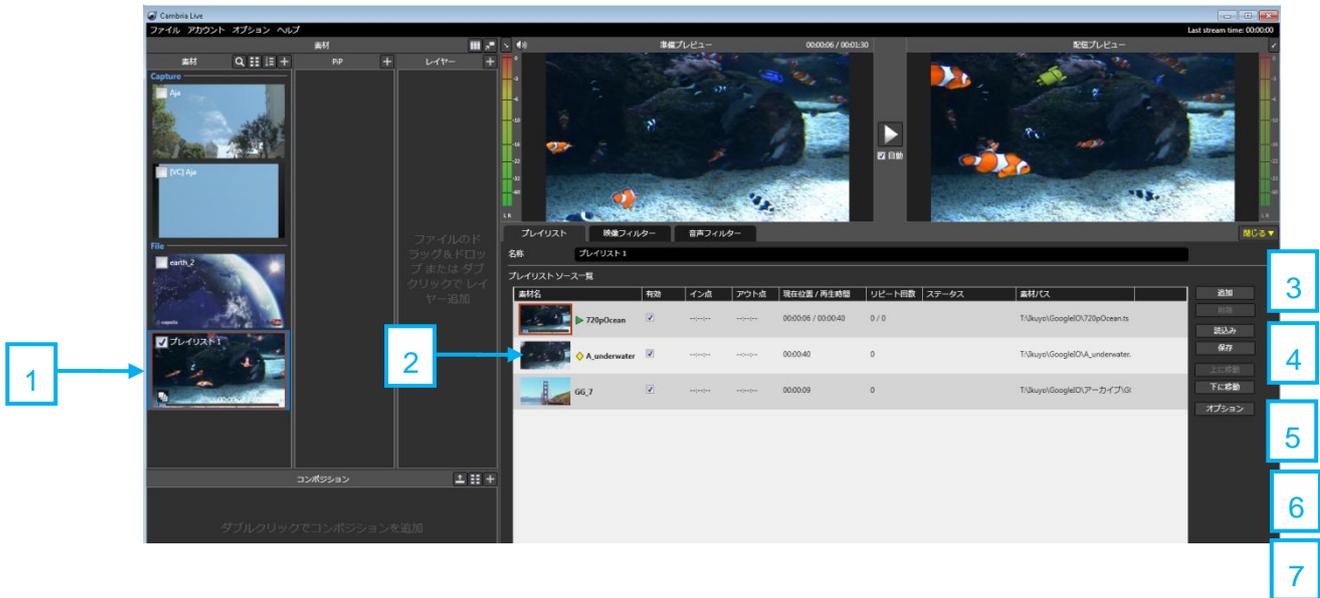
素材、ピクチャインピクチャ、レイヤーの組み合わせをコンポジットとして保存、利用する事が可能です。コンポジット機能を利用することによりワンクリックで希望の組み合わせの選択、配信が可能です。



- 1** **コンポジットを追加**
コンポジットとして追加したい素材、ピクチャインピクチャ、レイヤーを選択し+をクリックするとチェックされている素材、ピクチャインピクチャ、レイヤーがコンポジットとして追加されます
- 2** **コンポジットの名称**
追加したコンポジットの名称の登録が可能です
- 3** **コンポジットの適応**
「適応」をクリックするとコンポジットが適応されます。



Cambria Live Playlist 機能設定



- | | |
|---|---|
| 1 | <p>プレイリスト
プレイリストを素材として選択する事が可能です。</p> |
| 2 | <p>プレイリストソース一覧
プレイリストに追加にしたファイル一覧が表示されます。再生中のファイルには▶が表示されます。各プレイリストアイテムのリピート回数の設定も可能です。</p> |
| 3 | <p>素材ファイルの追加
Windows のファイル選択ダイアログを開き、素材を選択しプレイリストに追加します。また、エクスプローラーからドラッグ&ドロップし素材ファイルの追加も可能です。</p> |
| 4 | <p>読み込み
あらかじめ保存してあるプレイリストプロジェクトファイル (.clpl) の入力が可能です。</p> |
| 5 | <p>保存
設定したプレイリスト情報をプロジェクトファイル(.clpl)として保存する事が可能です。</p> |
| 6 | <p>素材の順番変更
プレイリストにある素材の順番を変更します。
選択したファイルの順番の繰上げ、繰り下げが可能です。</p> |

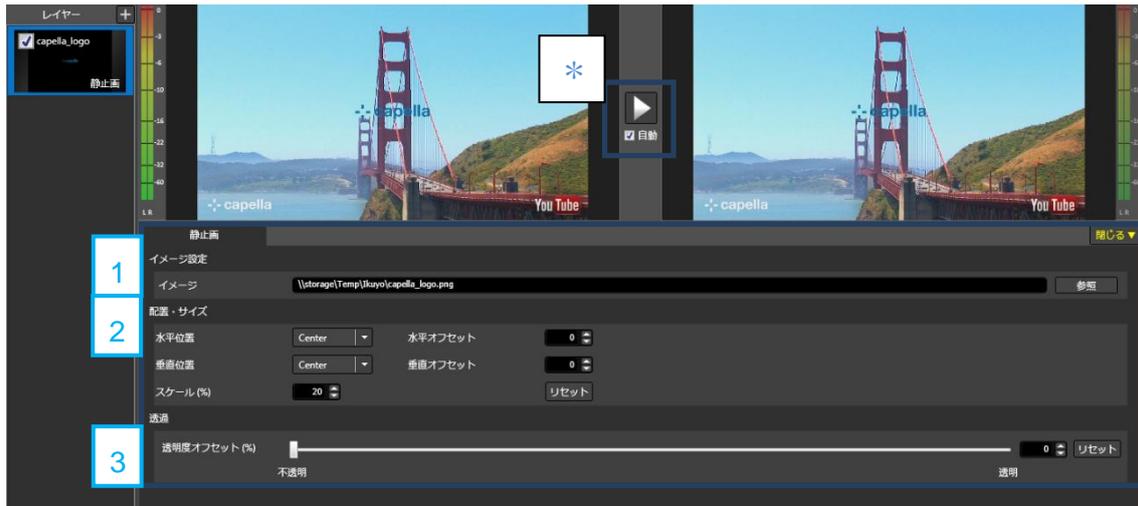


7

オプション

黒画面フェードイン/アウトの長さが指定できます。

Cambria Live レイヤー設定—静止画追加



*

自動設定

自動設定を ON にすると素材の切り替え、レイヤー追加、などの変更が常に配信ストリームに適応されます。自動設定を OFF にすると”適応“  ボタンをクリックすると変更が配信ストリームに適応されます。

1

イメージ設定

静止画ファイル (BMP, JPEG, PNG, TIF, TGA) の追加が可能です。

2

配置、サイズ設定

水平、垂直位置、スケール設定が可能です。

3

透過度オフセット (%)

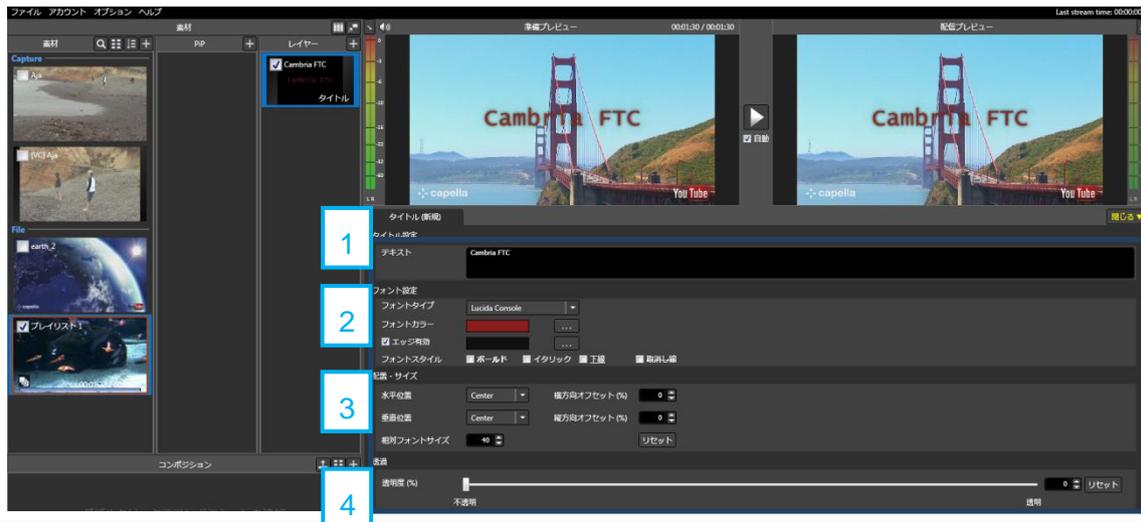
イメージファイルの透過度の設定が可能です。

設定後は 、または Esc キーをクリックすると設定画面が閉じられます



Cambria Live レイヤー設定—テキスト追加

テキストレイヤーの追加が可能です。



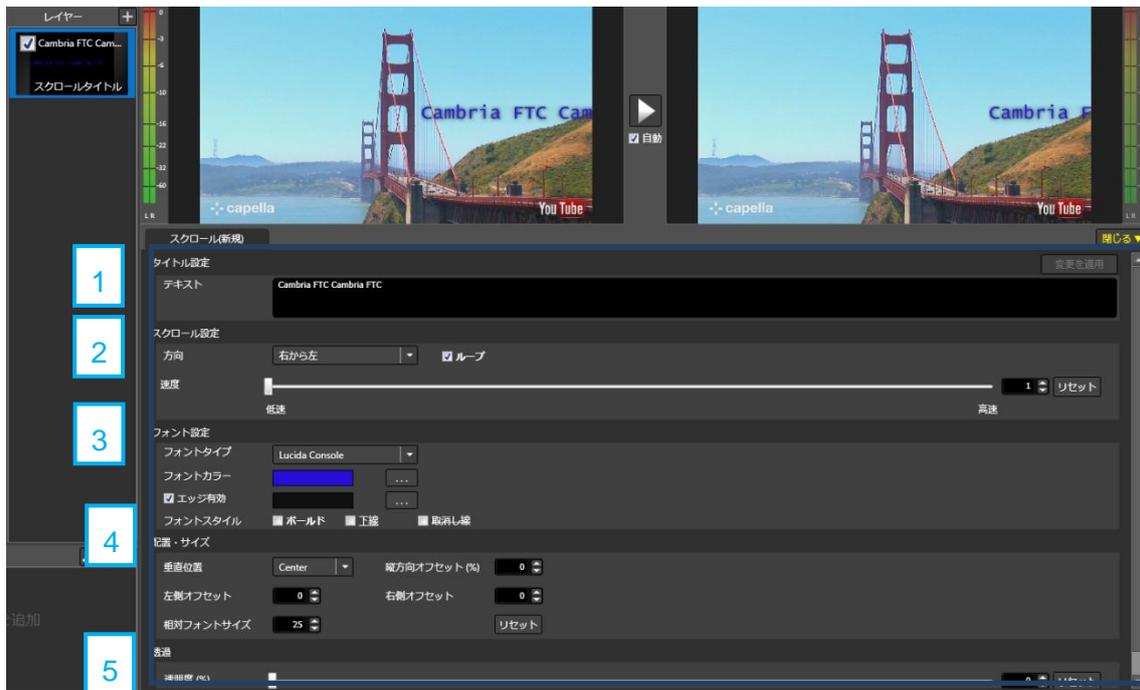
- 1** **テキスト**
テキスト入力が可能です。日本語、中国語での入力も可能です。
- 2** **フォント設定**
フォントタイプ、フォントカラー、フォントスタイルなどの設定が可能です。
- 3** **配置、サイズ**
テキスト位置、フォントサイズ設定が可能です。
- 4** **透過度**
テキストの透過度設定が可能です。

設定後は **閉じる** ▼、または **Esc** キーをクリックすると設定画面が閉じられます。



Cambria Live レイヤー設定—スクローリングタイトル追加

スクローリングタイトルの追加が可能です。



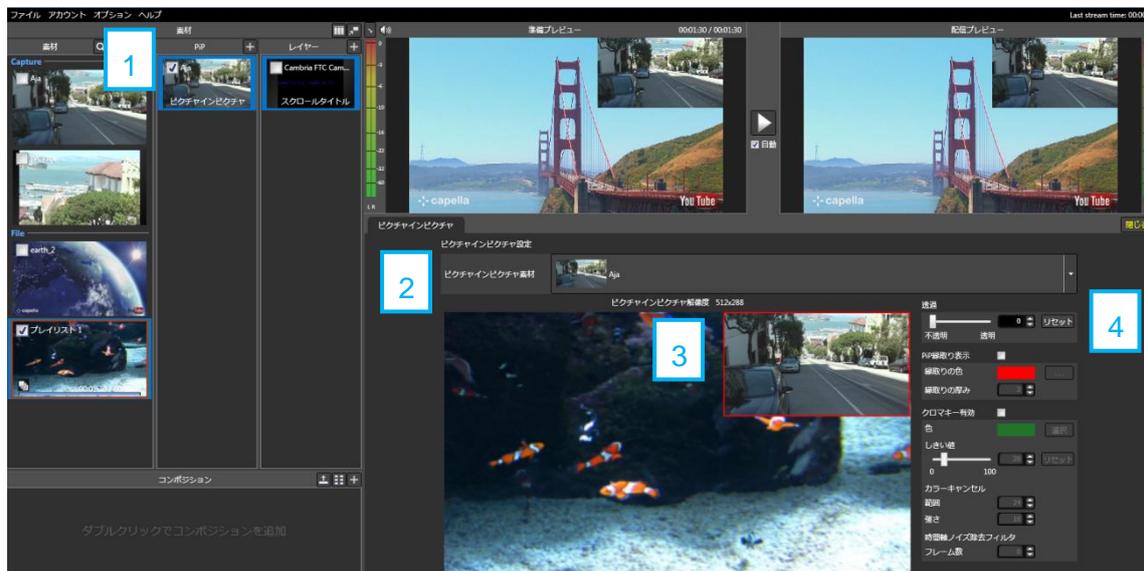
- | | |
|---|---|
| 1 | テキスト
テキストが追加できます。Unicodeに対応していますので、日本語、中国語での入力も可能です。入力後は「変更を適用」ボタンをクリックして下さい。 |
| 2 | スクロール設定
方向、速度、ループ設定ができます。 |
| 3 | フォントタイプ、フォントカラー、エッジカラー
フォントタイプ、フォントカラー、フォント、エッジカラー、フォントスタイルが設定できます。 |
| 4 | 配置・サイズ
垂直位置、オフセット、フォントサイズが設定できます。 |
| 5 | 透過
テキストの透明度が指定できます。 |

設定後は **閉じる**、または **Esc** キーをクリックすると設定画面が閉じられます。



Cambria Live レイヤー設定—ピクチャーインピクチャー

ピクチャーインピクチャー（PinP）機能を使用して素材ファイルに別枠でキャプチャ素材、VC素材を配置する事が可能です。選択した素材の上にキャプチャ素材、またはVC素材を配置してピクチャーインピクチャーエフェクトの作成が可能です。



- | | |
|---|--|
| 1 | <p>PIP を追加—キャプチャ素材から</p> <p>素材ファイルに追加したい PinP を選択します。キャプチャ素材、または VC 素材から選択可能です。</p> |
| 2 | <p>ピクチャーインピクチャー素材</p> <p>PinP に追加したキャプチャ素材、VC 素材が一覧で表示されます。PinP に使用したい素材を選択します</p> |
| 3 | <p>配置・サイズ</p> <p>水平位置、垂直位置が設定できます。</p> |
| 4 | <p>透過</p> <p>PinP の透過度が指定できます。</p> |



Cambria Live ークロマキー機能

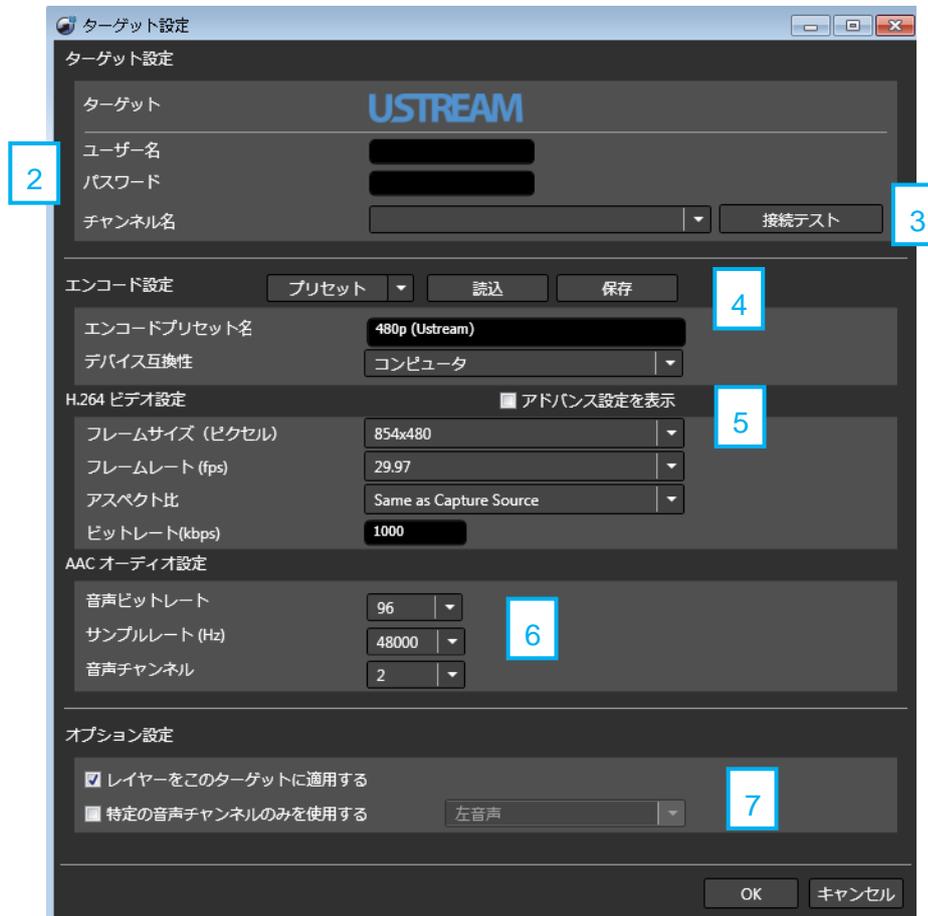
クロマキーは特定のクロマ（色）をキーカラーとして設定し、その部分を透過させます。PinP 機能を使用しクロマキー設定が可能です。

1	クロマキー有効 チェックボックスを ON にするとクロマキーが有効になります。
2	色 キーカラーに指定したいグリーンバックの均一な緑部分をプレビュー内でクリックして指定するだけで、背景の抜け具合を調整できます。緑色にマウスを動かして“選択”をクリックするとキーカラーに設定されます。
3	透明度 キーアウトする色の範囲でのかげの量を制御します。値が大きいほど影が多くなります。
4	カラーキャンセル キーカラーとその他の色が接する部分にキーカラーと反対色を加えることで合成画像をより自然に見せることができます。 範囲 透明にする色の範囲を広げたり狭めたりします。範囲を広げすぎると外側の色まで変わってしまうのでご注意ください。 強さ 透明にする色の度合いを設定します。 *範囲と強さを指定して境界がもっともめだたない値を選択して下さい。
5	時間軸ノイズ除去フィルタ 各フレームで必要な補正量を周囲のフレームと比較して判断しノイズ除去を行います。 フレーム数 周囲のフレームと比較して判断するための連続するフレームの範囲を指定します。



Cambria Live ターゲット設定

出力タブから「追加」をクリックしターゲット設定を追加します



1 ターゲット

Ustream, YouTube Live, Adobe Flash Media Server, Wowza、への配信、またはファイルへの出力、RTP/UDP(*オプション対応)が可能です。出力設定を複数追加し同時に複数ストリーム出力が可能です。例えば Ustream に配信しながら配信



とは異なる高解像度でファイル保存したり、Ustream の異なるチャンネルに同時に配信することが可能です。

- | | |
|----------|---|
| 2 | チャンネル名
配信先にチャンネル名が存在する場合、選択可能です。 |
| 3 | 接続テスト
Ustream 配信設定にてユーザー名、パスワードを設定の後「接続テスト」を行い指定したチャンネルにアクセス可能か確認できます。 |
| 4 | エンコード設定
エンコードプリセットの読み込みが可能です。デバイス互換性ではコンピュータ、iPhone/iPad, Google Android が選択できそれぞれのデバイスに適したプリセットが自動で設定されます。 |
| 5 | H.264 ビデオ設定
フレームサイズ、フレームレート、アスペクト比、ビットレート (Kbps) の設定が可能です。「アドバンス設定を表示」を選択するとパラメータ詳細設定が可能です。 |
| 6 | AAC オーディオ設定
音声ビットレート、サンプルレート、音声チャンネルの設定が可能です。 |
| 7 | オプション設定
レイヤーを適用するかどうかの選択をします。 |



Cambria Live H.264 コーデック設定

<p>プロファイル</p>	<p>H.264 のプロファイル設定は、アプリケーション・ドメイン(=プロセス)を区別する基本特性を定義します。"Level" (レベル設定) との組み合わせで、ピクチャーサイズ、フレームレート、ビットレートその他のエンコード特性に制約を与えます。変換デバイスとアプリケーションの仕様では、サポートされるプロファイル設定とレベル設定の最小値と最大値をたびたび定義します。</p> <p>プロファイルの設定は、「Baseline」「Main」「High」の3つから選択します。</p>
<p>レベル</p>	<p>H.264 のレベル設定では、ピクチャーサイズ、フレームレート、ビットレートその他のエンコード特性に制約を与えます。</p> <p>H.264 変換デバイスやアプリケーションの仕様では、サポートされるプロファイル設定とレベル設定の最小値と最大値をたびたび定義します。</p> <p>レベルの設定範囲は 1.0~5.1 です。</p>
<p>フレームサイズ (ピクセル)</p>	<p>映像のフレームサイズを画素数で設定します。「Same as Source」を選択すると映像ソースから検出された画素数と同じ設定になります。その他は 160×120~1920×1080 と、カスタムサイズを選択できます。</p>
<p>フレームレート (fps)</p>	<p>映像のフレームレートを設定します。ソースと同じ設定、12~60 フレーム/秒と、カスタムフレームレートを選択できます。</p>
<p>アスペクト比</p>	<p>アスペクト比を設定します。ソースと同じ設定、4:3、16:9、カスタム設定から選択できます。</p>
<p>ビットレート(kbps)</p>	<p>対象とするビデオ映像をエンコードするときのビットレート数/秒を設定します。単位は kbit/秒です。</p> <p><推奨>SD (720x480) には 2000 ~ 4000 kbps を、HD (1920x1080) には 7000 ~ 9000 kbps をビットレートの値として設定することを推奨します。設定可能な最大値は、H.264 のプロファイルとレベルで制限されています。</p>
<p>CPB サイズ (秒) 最大値</p>	<p>最大バッファサイズを設定します。ターゲットとするデコーダーのビデオバッファと同様です。MPEG2 トランスポートストリームのために、この値は1または2の設定が典型的です。</p>



	<p>アクトビラ準拠のためには、1 に設定してください。Web コンテンツのためには、5 以上に設定します。カスタムを選択するとユーザー独自の設定が可能です。単位は kbit/秒です。下限は 200 kbits、上限は 62500 kbits です。</p>
CPB サイズ (kbits) 最大値	<p>標準の H.264 と、ARIB 準拠の H.264 形式の切り替えを行います。</p> <p>アクトビラで使用するコンテンツには ARIB 準拠、通常の使用目的には No setting (Basic H.264) を選択してください。</p>
最大 GOP 長 (フレーム枚数)	<p>最大 GOP 長を設定します。範囲は 1 から 300 です。I フレームオンリーでのエンコードには、この値を 1 に設定します。</p>
固定 GOP 長使用	<p>チェックを入れると固定 GOP 長を使用する設定になります。この場合、最大 GOP 長は(B フレーム数+1) の整数倍の値に設定する必要があります。この選択が設定されていない場合は、Cambria は可変 GOP 長を最適な値に自動的に設定します。</p>
B フレーム枚数	<p>連続した I フレームと P フレームの間の B フレームの数を設定します。設定範囲は 0 から 3 です。ベースラインメインプロファイルが選択されている場合、この値は 0 にのみ設定可能です。B フレーム使用は高画質が得られますが、CPU 使用率が上がります。</p>
ストアド B フレーム	<p>一般的に、参照 B フレームの使用により高画質が得られますが、デコーダーによっては参照 B フレームがサポートされていない場合もあります。</p> <p>None — None に設定すると、参照 B フレームは使用されません。</p> <p>Always — Always に設定すると、参照 B フレームが常に使用されます。B フレーム数が 3 に設定されている場合においてのみ、Always に設定することが可能です。</p> <p>Adaptive — Adaptive に設定すると、参照 B フレームは適応的に使用されます。B フレーム数が 3 に設定されている場合においてのみ、Adaptive に設定することが可能です。</p>
CABAC 使用	<p>CAVLC (可変長符号化) または CABAC (算術符号化) のどちらかを選択します。CABAC はエンコードもデコードも速度が遅くなりますが、通常は高品質な出力結果が得られます。ベースラインプロファイルエンコードにおいては CABAC を使用できないので、CAVLC を選択してください。</p>



8x8 変換	チェックを入れると 8×8 直行変換 が有効になります。 HD など高解像度な入力ソースで高画質な変換結果を得ることができます。プロファイルの設定が「 High 」の場合のみ 8×8 直行変換 を使用することができます。
動き探索モード	動き予測アルゴリズムを設定します。 High Speed — High Speed 「高速」に設定すると、画質を若干落として高速化します。 RD 最適化モード を使用する設定の場合は、高速に設定できません。 High Quality — High Quality 「高画質」に設定すると、速度を若干落として高画質化します。 Highest Quality — Highest Quality 「最高画質」に設定すると、速度を若干落として高画質化します。（速度は SSE4.1 に最適化されます。）
処理速度重視	Fast Decision Mode を有効にすると、画質を抑えて高速にエンコードします。 なお、 Mode1 および 2 を選択した場合は 自動的に ROD Mode が使用できなくなります。また Motion Estimation Mode が「 High Speed 」を選択した場合には Fast Decision Mode の機能は動作しません。 Not Used — 初期値では使用しません。 Mode 1 (Fast) — 画質を抑えて高速にエンコードします。 Mode 2 (Faster) — 画質を抑えて Mode 1 より高速にエンコードします。
動き探索参照フレーム枚数	動き探索の参照フレーム数を設定します。設定範囲は 1～5 です。この値は 2 に設定することを推奨します。参照フレーム数を増やすと、速度を若干落として高画質化します。
動き探索—水平	動き探索時の範囲（横方向）を指定します。 8～64 の範囲で、 8 の倍数で設定します。この設定は Motion Estimation Mode が「 High Quality 」に設定されているときに使用できます。
動き探索—垂直	動き探索時の範囲（縦方向）を指定します。 8～64 の範囲で、 8 の倍数で設定します。この設定は Motion Estimation Mode が「 High Quality 」に設定されているときに使用できます。
非ブロック化	ループフィルタを指定します。 0 — Off 1 — On



非ブロック化-アルファ	ループフィルタパラメーターを指定します。 値が大きくなるとブロック化が現象しますが、エッジのシャープ度は少なくなります。
非ブロック化-ベータ	ループフィルタパラメーターを指定します。 値が大きくなるとブロック化が現象しますが、エッジのシャープ度は少なくなります。
空間フィルタモード	空間フィルターのモードを変更します。 0 - 0 に設定するとフィルターは OFF となり適用されません。 1 - 1 に設定すると適応強度でフィルター処理されます。フレーム単位で強度が切り替わります。 2 - 2 設定すると固定強度でフィルター処理されます。
空間フィルタ強度	空間フィルターの強さを設定します。範囲は 1~10 です。より大きな値に設定すると、強いフィルターで処理されます。

オーディオ設定

Number of Channels	チャンネル数としてモノラルの場合 1 を、ステレオ（または 6ch）の場合 2 を設定します。
Sample Rate (hz)	オーディオエンコードで使用するサンプリングレートをヘルツ単位で定義します。32000/441000/48000 から選択できます。
Bit Rate (kbps)	オーディオエンコードで使用するビットレートを KB/秒単位で定義します。より高いビットレート設定ではオリジナルのオーディオに近い品質になりますが、変換後のファイルサイズが大きくなります。
Use HE-MPEG2 AAC	HE-MPEG2 AAC(High-Efficiency Advanced Audio Coding)を使用するには、チェックボックスにチェックを入れます。 HE-MPEG2 AAC はオーディオファイルをより圧縮しファイルサイズを小さくできますが、音質は低下します。

Cambria Live Ustream 配信設定



- | | |
|---|--|
| 1 | <p>ターゲット</p> <p>Ustream を選択して下さい。</p> |
| 2 | <p>ユーザ名、パスワード</p> <p>Ustream ユーザ名とパスワードを入力して下さい。</p> |



- 3 チャンネル名
ユーザ名に登録されているチャンネル一覧が表示されます。
- 4 接続テスト
指定したチャンネルにアクセス可能か接続テストを行って下さい。

Cambria Live YouTube 配信設定

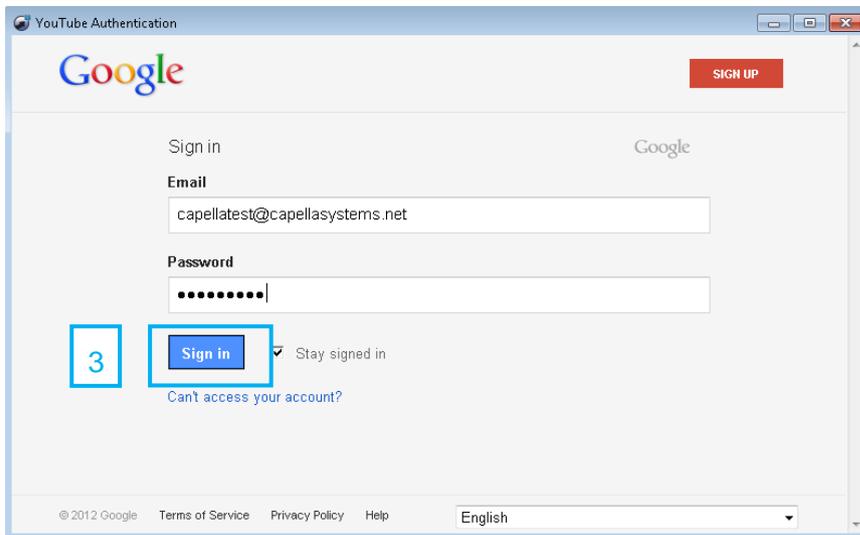
*Cambria Live から YouTubeLive へ配信するためには YouTube/Google 社から Contents Partner 認定を受けアカウントアクセス許可を取得する必要があります。



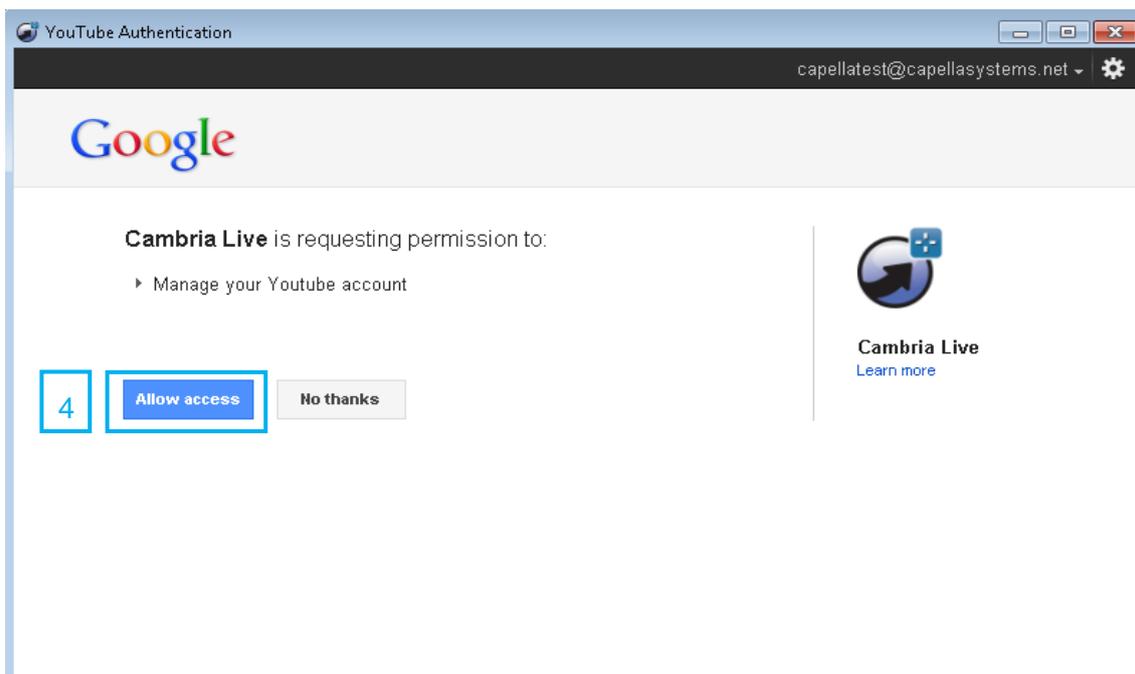
- 1 「アカウント」 -> 「アカウントマネージャを表示」 を選択



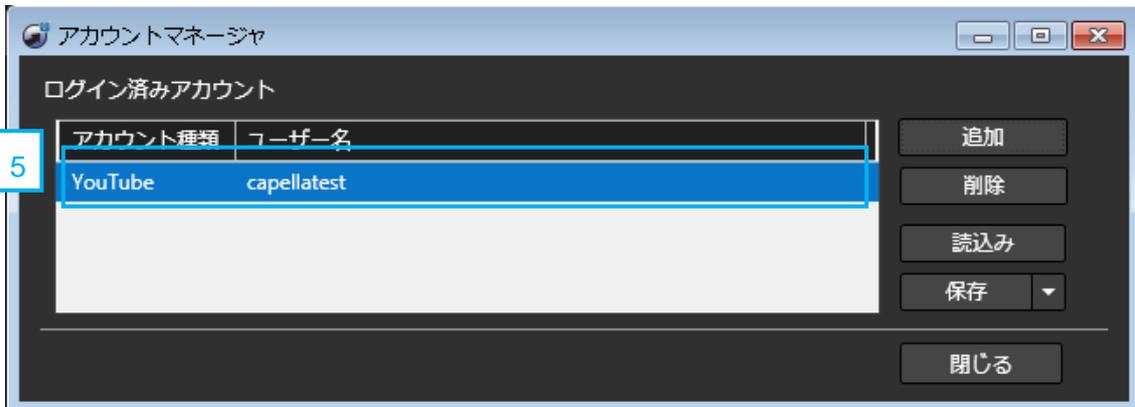
- 2 追加をクリック



3 E-mail, Password を入力し「Sign In (ログイン)」をクリック

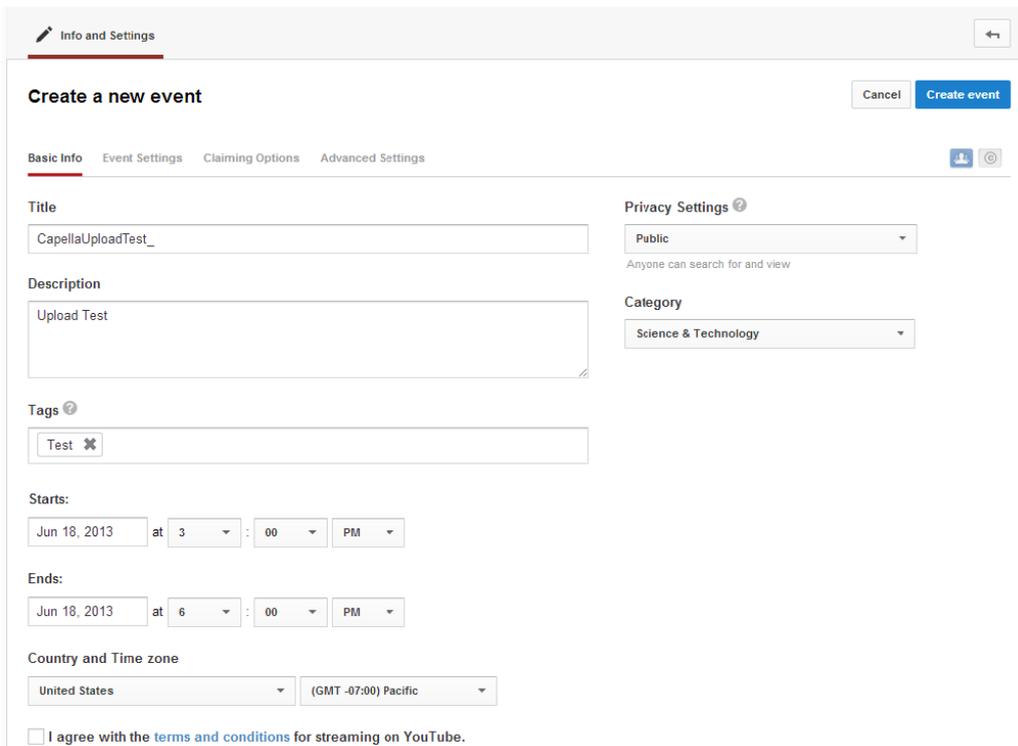


4 「Allow Access (アクセスを許可)」をクリック



5 アカウントが追加されます。複数アカウントの追加が可能です。
複数アカウント情報をプロジェクトファイルに保存、またはプロジェクトファイルの読み込みが可能です。
***Cambria Live V.2.3 を使用するには YouTube Web V.2 にアップデートする必要があります。

6





6 イベント名、詳細、タグ情報、開始時間、終了時間、Privacy, Category を指定してください。 Privacy を Public に設定すると誰でもチャンネルを検索しビューする事が可能です。 Private に設定すると50名以下を招待し招待者のみビューする事が可能です。 Unlisted に設定するとビデオのリンクを持っている人のみビューする事が可能で YouTube Web 上で検索してもチャンネルは表示されません。

設定後” I agree with the terms and condition for streaming on YouTube”をチェックし “Create Event”をクリックして下さい

7 CapellaUploadTest_

メインカメラ カメラを追加

サムネイル

この画像は、イベントが他のサイトに埋め込まれた時のプレビュー画像としても使用されるため、できるだけ大きいサイズの画像をアップロードしてください（1280x720を推奨）。使用できるファイル形式はJPG、GIF、BMP、またはPNGで、サイズ上限は2MBです。

参照

エンコーダの最大維持ビットレートを選択*

エンコーダの最大出力に対応する範囲を選択します。

取り込みの基本設定

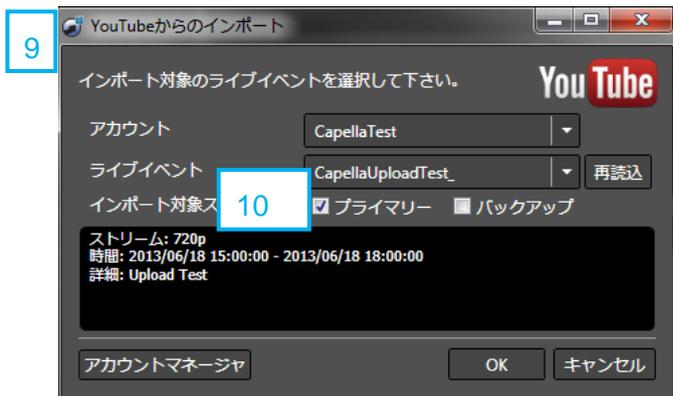
ビットレートを選択

カスタム取り込み ?

7 サムネイルを選択しエンコーダの最大出力に対応する範囲を選択して下さい。 YouTube Live V.2（新プラットフォーム）では利用可能なアウトバウンド大域幅に基づいて、安定したストリーミングが可能なおもっとも高い高解像度を選択して下さい。それより低い解像度は全て YouTube で自動的に作成されます。



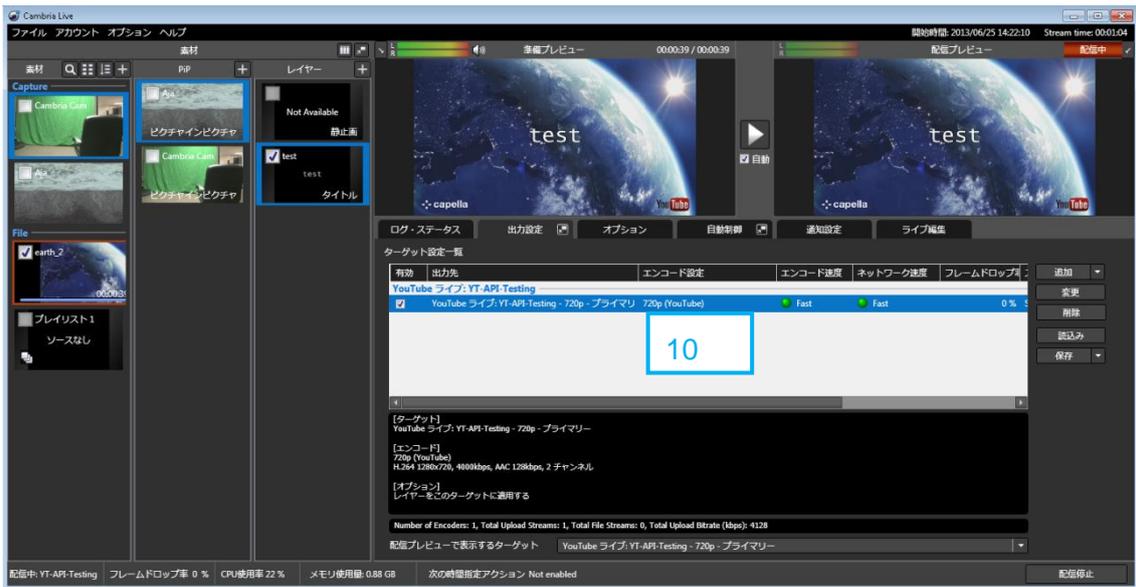
8 “エンコーダを選択” して下さい。 現行 Cambria Live は字幕機能に対応して
 いないため字幕機能のオプションは OFF として下さい。 設定終了後に“変更
 を保存”をクリックしイベントを追加して下さい。



9 出力設定→「読み込み」→「YouTube」を選択すると登録したライブイベン
 ト一覧が表示され配信するライブイベントを選択する事ができます。

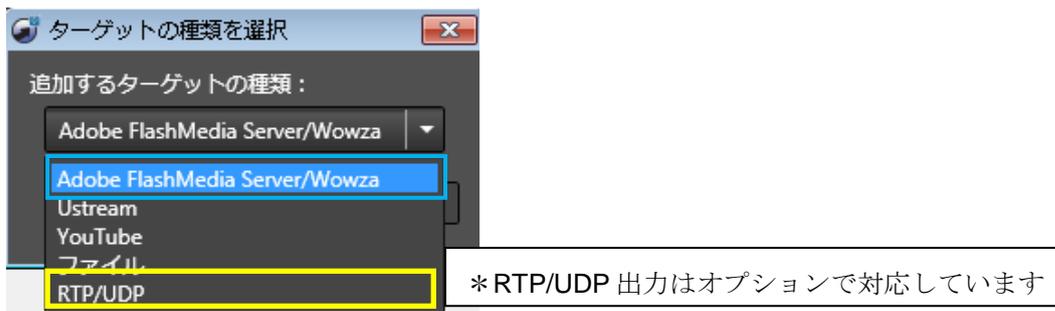


10 Cambria Live マシン 2 台から同時配信を行い一つのマシンからはプライマリストリームの配信、もう一つのマシンからバックアップストリームの配信をする事により各マシンに問題が生じた場合 YouTube サーバ側で別マシンから配信されているストリームに自動で切り替えられ配信を継続させます。



10 Cambria Live 上で「配信開始」をクリックし配信開始すると「配信中」ボタンが表示されます。Cambria Live で配信開始後、Cambria Live から「Start Broadcast」をクリックすると YouTube チャンネルから視聴可能になります。

Cambria Live AdobeFlash Media Server/Wowza 配信設定



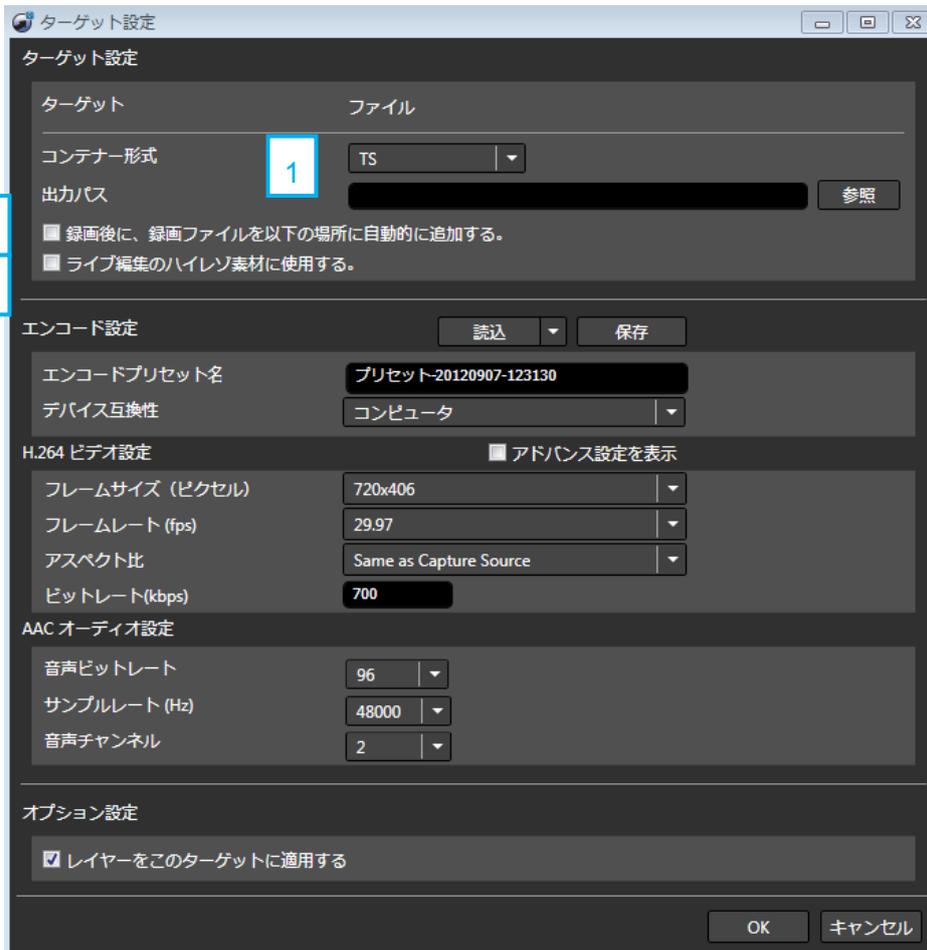
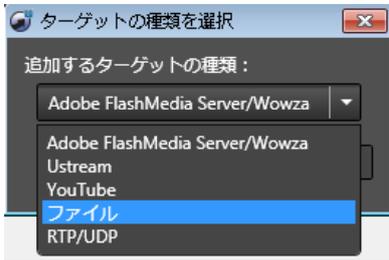


1

- 1 ターゲットから Adobe FlashMedia Server/Wowza を選択しサーバアドレスを入力して下さい。ストリーム名の入力が可能です。サーバアドレス情報を入力後接続テストを行って下さい。 *Akamai サーバに配信の際はユーザ名（任意）、パスワード（任意）を入力して下さい

Cambria Live ファイル出力設定

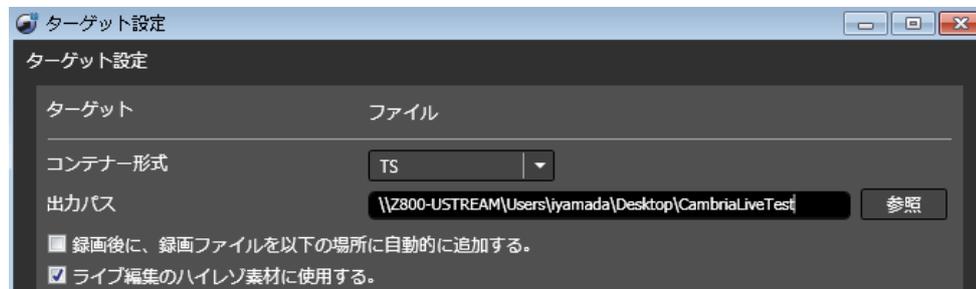
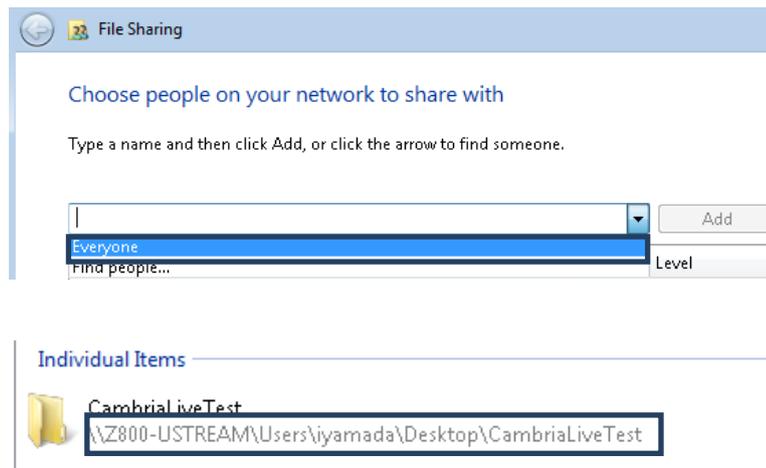
Cambria Live はライブ配信と同時にファイル出力が可能です。 TS , MP4 ファイル出力に対応しており録画後すぐに Cambria Live に入力しライブ映像の再配信が可能です。ハードディスクへのファイル出力の場合はネットワーク速度に影響されませんのでアーカイブ用途に高ビットレートでの高画質エンコードが可能です。



- 1 コンテナ形式
TS, MP4 から選択可能です。
- 2 録画後に録画ファイルを自動的に素材一覧に追加する
録画したファイルをファイル収録後すぐに素材一覧に追加し再配信をおこないます。ライブイベントのハイライト再配信に便利な機能です。
- 3 ライブ編集のハイレゾ素材に使用する
Cambria Live と Cambria FTC のシステムをネットワークで連携、共有させるこ

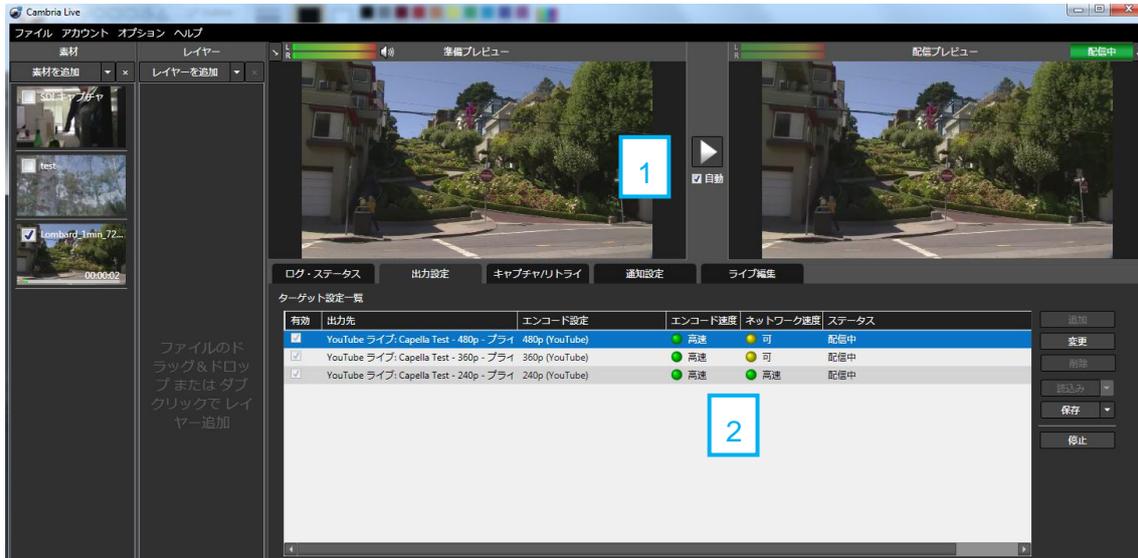


とで、配信中にリアルタイムでカット編集を行う事ができます。Cambria Liveからのカット点情報をもとに Cambria FTC にてさまざまなフォーマットに変換しハイライトクリップの作成が可能です。出力パスは Cambria FTC からアクセス可能なパスに設定する必要があります。出力フォルダシェア設定を Everyone にしパスを出力パスに入力して下さい。





Cambria Live 配信開始



1

自動設定

準備プレビューの変更点が自動で配信ストリームに適応されます。レイヤー追加、ソース変更などを行った場合自動で配信ストリームにも変更が適応されます。準備プレビューで内容を確認した上で配信ストリームに適応したい場合チェックマークを外して下さい。この場合▶をクリックすると変更点は配信スト



	<p>リームに適用されます。</p>
2	<p>エンコード速度、ネットワーク速度、ステータス表示</p> <p>エンコード速度、ネットワーク速度、ステータス表示が表示されます。</p>
3	<p>エラー</p> <p>ネットワーク速度が低下しリアルタイムでのアップロードが不可になった場合は エラー が点滅します。CPU の負荷が上がりエンコード速度がリアルタイム以下になった場合も エラー が点滅します。</p>
4	<p>ステータス</p> <p>各配信ストリームのステータスが表示され配信エラー発生時にはリトライステータスが表示されます。</p>

Cambria Live 配信プレビュー選択

Change screen shot



1	<p>配信プレビュー選択</p> <p>配信プレビュー画面から表示したいターゲットの選択が可能です。</p> <p>準備・配信プレビューの更新頻度</p> <p>頻度の高／中／低が選択できます。</p>
---	---



Cambria Live ファイル出力開始、停止

ログ・ステータス 出力設定 オプション 自動制御 通知設定 ライブ編集

ターゲット設定一覧

有効	出力先	エンコード設定	エンコード速度	ネットワーク速度	フレームドロップ	ステータス
<input checked="" type="checkbox"/>	YouTube ライブ: YT-API-Testing - 720p - プライマリ 720p (YouTube)		● Fast	● Fast	0 %	Streaming (Live)
<input checked="" type="checkbox"/>	YouTube ライブ: create assets - 720p - プライマリ 720p (YouTube)		● Fast	● Fast	0 %	Streaming (Previewing)
<input checked="" type="checkbox"/>	ファイル: C:\Users\build\Desktop\Test\test.ts [File Archive]					0 % Recording

1

- ターゲットを追加
- 選択中のターゲットを変更
- 選択中のターゲットを複製
- 選択中のターゲットを削除
- 選択中のターゲットを有効化
- 選択中のターゲットを無効化
- 出力先を開く

[ターゲット]
ファイル: C:\Users\build\Desktop\Test\test.ts

[エンコード]
[File Archive] 1280x720 8000kbps Main Profile
H.264 1280x720, 8000kbps, AAC 128kbps, 2 チャンネル

[オプション]
レイヤーをこのターゲットに適用する

ターゲット設定

ターゲット ファイル

コンテナ形式 TS

出力パス C:\Users\build\Desktop\Test\test.ts 参照

録画後に、録画ファイルを以下の場所に自動的に追加する。
 追加後に素材名を変更する
 ライブ編集のハイレゾ素材に使用する。

ソース一覧
ソース一覧
プレイリスト1

エンコード設定 プリセット 読み込み 保存

エンコードプリセット名 [File Archive] 1280x720 8000kbps Main Profile

デバイス互換性 コンピュータ

H.264 ビデオ設定 アドバンス設定を表示

フレームサイズ (ピクセル) 1280x720

フレームレート (fps) 29.97

アスペクト比 Same as Capture Source

ビットレート(kbps) 8000

AAC オーディオ設定

音声ビットレート 128

サンプルレート (Hz) 48000

音声チャンネル 2

オプション設定

レイヤーをこのターゲットに適用する

2

- 1 ファイル出力停止
- 配信中にファイル出力を停止し複数クリップの作成が可能です。「選択中のターゲットを有効化」または「選択中のターゲットを無効化」ボタンをクリックして下さい。



2 録画後に、録画ファイルを移動

ファイル出力設定で「録画後に」、「録画ファイルを自動的に素材一覧に追加する」を設定すると録画ファイルをソース一覧に追加、またはプレイリストへの追加が可能です。

Cambria Live オプション機能

1 配信リトライ設定

配信中に接続が中断された場合、自動で再接続する回数、間隔を設定することができます。

2 外部信号制御設定

外部信号制御使用スイッチ名を選択できます。この機能使用には外部信号制御オプション購入が必要です。提供する外部信号制御オプションはお客様のワークフローにあわせたカスタマイズになります。



Cambria Live 通知設定 ツイッター投稿

1

イベント通知

配信開始時 ツイッター 変更 サウンド 短いビープ音 3回

配信停止時 ツイッター 変更 サウンド 短いビープ音 2回

エラー発生時 ツイッター 変更 サウンド 長いビープ音 3回

定期的 (配信中のみ) ツイッター 変更 サウンド 短いビープ音 3回

通知間隔 1分

ツイッターアカウント設定

アカウント (アカウントが設定されていません) アカウント設定

ツイートテスト

ツイッターアクセスの承認

下記の手順でCambria Liveからのツイッターアカウントへのアクセスを許可してください:

1. "ブラウザを開く" ボタンをクリックし、ツイッターの許可設定ページを開いてください。
2. ブラウザ上の"アプリケーションを許可" ボタンを押してください。
3. 表示されたPINをコピー&ペーストで以下の"PIN"と書かれた空欄に入力してください。
4. "OK"ボタンを押し、許可設定の完了してください。

PIN ブラウザを開く

OK キャンセル

twitter Sign up

Authorize Cambria Live to use your account?

This application **will be able to**:

- Read Tweets from your timeline.
- See who you follow, and follow new people.
- Update your profile.
- Post Tweets for you.

2

Username or email

Password

[Forgot your password?](#)

Authorize app **No, thanks**

This application **will not be able to**:

- Access your direct messages.
- See your Twitter password.

Cambria Live
By Capella Systems LLC
www.capellasystems.net/

Cambria Live is an application to broadcast a live streaming to UStream. The application has a feature to post current status to Twitter such as streaming is started to notify viewers.

- 1 **通知設定**
ツイッターから Cambria Live イベント通知が可能です。「アカウント設定」をクリックし Cambria Live からのツイッターアカウントへのアクセス設定を行います。
- 2 **ツイッターアクセスの承認**
Twitter ブラウザからツイッターアカウント情報を入力し Cambria Live からツイッターアカウントへのアクセス設定を行います。



Cambria Live 編集 リアルタイム編集機能

Cambria FTC をネットワークで共有・連携させ、エンコード/配信中にライブイベントのハイライトが作成できます。ライブ配信中にイン/アウト点が設定できます。



1	<p>Cambria FTC リンク</p> <p>Cambria Live マシンと同じネットワーク上の FTC マシンロケーションを入力します。Cambria Live 編集機能を有効にする為には、ターゲット設定の「ライブ編集のハイレゾ素材に使用する。」にチェックを付けて下さい。出力パスには Cambria FTC とネットワーク上で共有するパスを入力します。</p>
2	<p>設定</p> <p>Cambria FTC のエンコードプリセットインポートします。</p>
3	<p>セグメントを出力</p> <p>イン/アウト点を Cambria FTC へ出力します。セグメント名を特定できます。</p>
4	<p>セグメントを再生</p> <p>Cambria FTC へ出力前にセグメントを再生できます。</p>
5	<p>イン点設定</p> <p>スライダーを移動させタイムライン上でイン点の設定ができます。</p>
6	<p>今のフレーム</p> <p>再生中にイン点の設定をします。</p>



- 7 アウト点設定
スライダーを移動させタイムライン上でアウト点の設定ができます。
- 8 今のフレーム
再生中にアウト点の設定をします。

Cambria Live オプション機能—外部信号制御機能

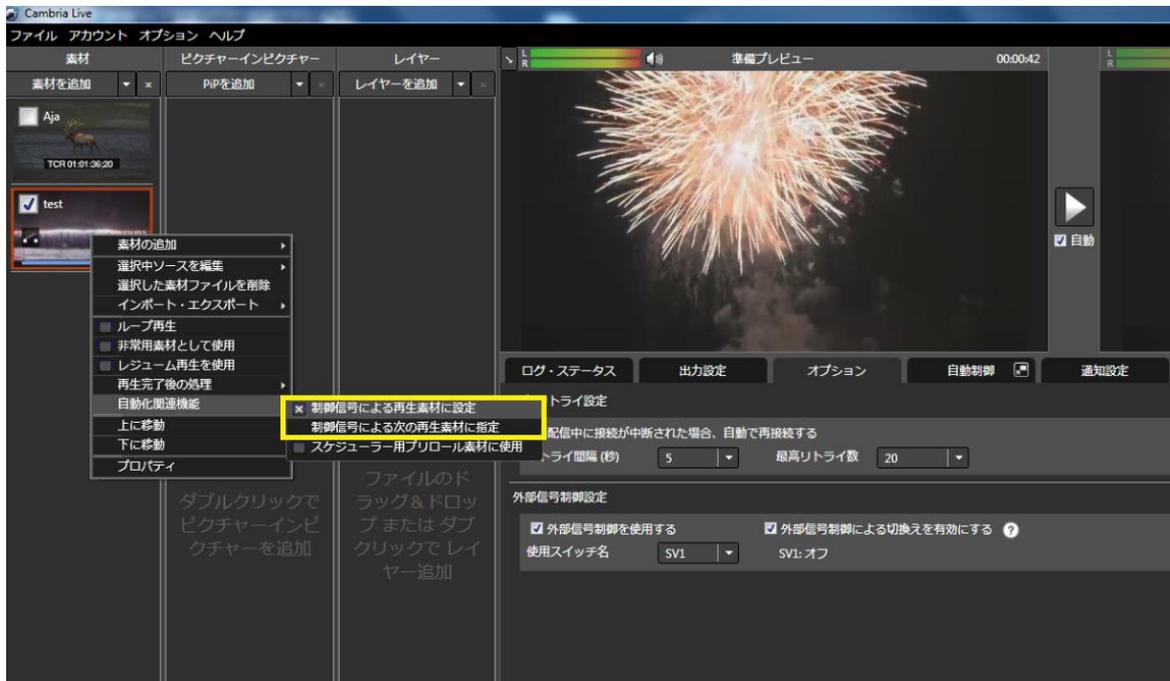
外部接点信号制御機能を使用すると外部信号により素材ファイルとキャプチャ素材への自動切り換えが可能になります。



- 1 外部接点信号制御を使用する
チェックする事により外部接点信号機能が有効になります。使用スイッチはSV1, SV2 選択可能です。選択した信号に従い素材ファイルとキャプチャ素材への切り替えを行います。通常外部接点信号はマスター室から送付されるタリー信号を使用します。
- 2 外部信号制御による切り替えを有効にする
外部信号制御による切り替えはスケジュール開始および終了時間にて自動的に有効、無効に切り替わります。非常用に、このチェックボックスを使用して、有効、無効の状態を切り替えることができます。

外部信号制御機能—CM 素材登録

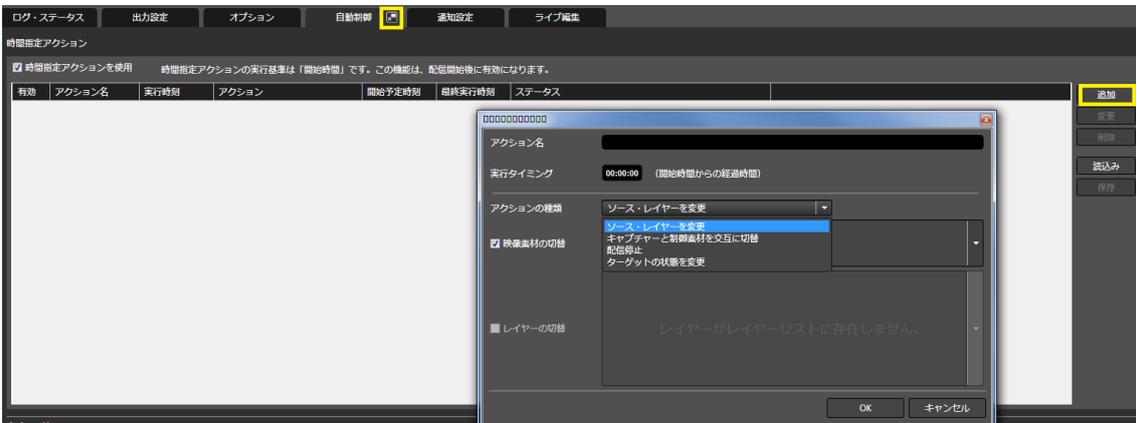
外部信号制御機能を使用の際は配信する CM 素材ファイルをあらかじめ Cambria Live に入力、登録しプロジェクトファイル (.Clpr) を作成します。作成したプロジェクトファイルを Cambria Live スケジュールイベントに登録する事により指定した素材ファイルが各スケジュールイベントで配信され外部信号制御機能によりキャプチャから CM 素材ファイルに切り替わります。



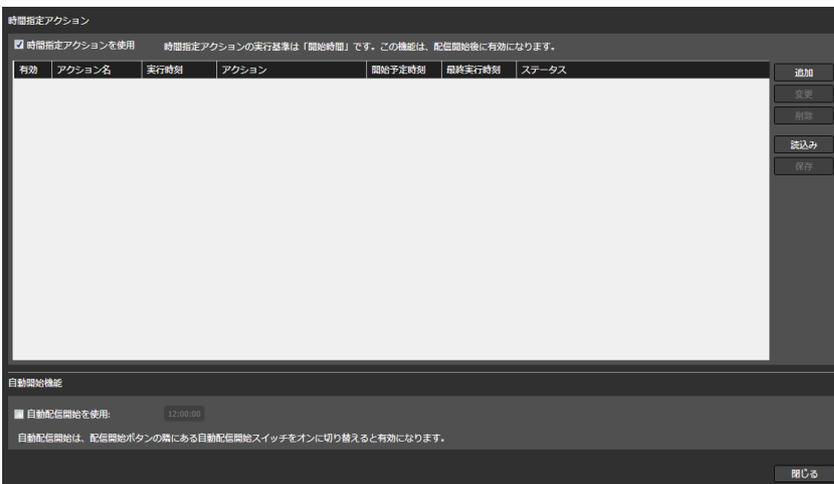
- | | |
|---|---|
| 1 | <p>制御信号による再生素材に設定</p> <p>外部接点信号の素材として設定します。設定していない素材は切替時にスキップされます。</p> |
| 2 | <p>制御信号による次の再生素材に指定</p> <p>外部信号制御時に次の素材として任意に設定できます。</p> |
| 3 | <p>スケジューラ用プリロール</p> <p>外部信号制御によるスケジュール配信時のプリロール素材（テスト配信素材）として使用する素材を設定します。</p> |

Cambria Live オプション機能—自動制御

自動制御機能を使用する事によりストリーム開始時間からの経過時間により各アクションの設定が可能です。設定可能なアクションはソースレイヤーの変更、キャプチャーと制御素材ファイルへの切替、配信停止、または各ファイル出力の開始・停止、などです。



 をクリックすると時間設定アクション画面がひらきます。



- 1 **ソース、レイヤーを変更**
切り替えたいソース素材、またはレイヤーを選択すると指定した実行タイミングによりソース素材の切り替え、またはレイヤーの切り替えが実行されます。
- 2 **キャプチャーと制御素材交互に切替**
制御素材からキャプチャ素材への切替が実行されます
- 3 **配信停止**
選択した出カストリームの配信停止が実行されます
- 4 **ターゲットの状態を変更**
選択したターゲットの配信開始、停止が実行されます



Cambria Live オプション機能—スケジューラー

Cambria Live Scheduler を使用することで、複数の番組を登録し、指定した配信開始時間、配信終了時間に合わせて自動配信することができます。

イベント設定

イベント設定

名前: test

説明:

頻度: 毎日

開始日: 2013/04/26

終了日: 2013/04/26

開始時間: 12:00:00 継続時間: 00:00:30

終了時間: 12:00:30

プロジェクトファイル プロジェクトの情報で設定を更新する。

C:\Users\iyamada\Desktop\test1.clpr

プロジェクト概要

キャプチャ素材: SICAM
素材: 2
デフォルト素材: キャプチャ (SICAM)
レイヤー: 0 (使用中: 0)
配信ターゲット (有効): 0
ファイルターゲット (有効): 1

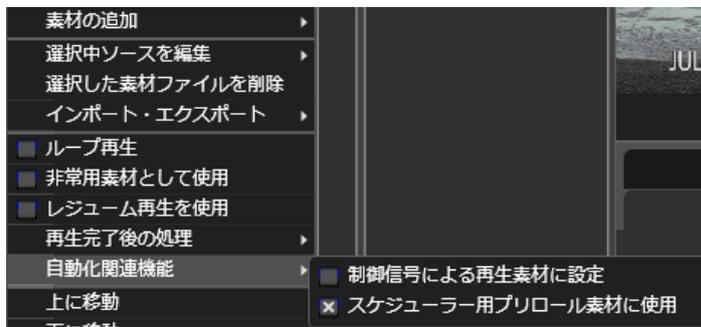
OK キャンセル

- 1 スケジュール追加
Cambria Live スケジューラを起動しイベントを追加します。イベント名、イベント説明、頻度、開始日、開始時間、終了時間の設定が可能です
- 2 プロジェクトファイル
イベント情報を設定の後あらかじめ Cambria Live から作成したプロジェクトファイルを入力します

開始時間: 10:05:00 継続時間: 00:05:30

終了時間: 10:10:00 プリロール: 30秒

プロジェクトファイル



1 プリロール設定

Cambria Live にて入力した素材を“スケジューラ用プリロールに使用”
（自動関連機能→スケジューラ用プリロール素材に使用）に選択すると
Cambria Live スケジューラのイベント設定画面からプリロール配信時間設定が
可能です。



- 「Cambria」は、カーリーナシステム(株)の商標です。
- 予告なく仕様または外装の一部を変更することがあります。
- その他の商品名は各社の商標または登録商標です。

製品のご相談や修理のご依頼は、販売店へお問い合わせください。

購入販売店名
〒
電話番号 () -

Capella Systems , LLC

1735 North First Street, Suite 110

San Jose, CA 95110

(408)770-1850



©2012 Capella Systems, LLC All Rights Reserved

